

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インストラクター理論と実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インストラクター理論と実践Ⅰ		
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	単位数	3
使用教材	パーソナルトレーニング101/NESTA PFT		出版社	NESTA JAPAN	
時間数	45				

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	トレーニングの基本や様々な種目を実践形式で学び、自らトレーニングすることの楽しさと重要性を感じる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンベル種目、バーベル種目のやり方を本質的に学び、実践できる。</li> <li>トレーニングの指導方法を学び、簡単なセッションを行うことができる。</li> </ul>				
評価基準	実技・指導実践：60% 授業態度・意欲：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	NESTA PFT				
関連科目	インストラクター理論と実践Ⅱ～Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	桑崎 寛 他2名	実務経験	○		
実務内容	Tipnessクオリティスーパーバイザー兼パーソナルトレーナー、日本テレビ「ダイエットヴィレッジ」メイントレーナーの経験を基に、自らトレーニングすることの楽しさと重要性を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	あなたには、何が必要でしょうか？	トレーナーの役割やあるべき姿、必要なスキルについて学ぶ マシンに触れながら主要な筋肉について学ぶ
2	筋力トレーニングの重要性と可能性 ダンベル種目の習得（上半身①）	筋力トレーニングの利点、ダンベルトレーニングに必要な道具やアクセサリの扱い方を学ぶ 上半身種目（ベンチプレス、ショルダープレスなど）10種目の実践と補助の仕方
3	ダンベル種目の習得（上半身②）	上半身種目（サイドレイズ、ハンマーカールなど）10種目の実践
4	ダンベル種目の習得（下半身①）	下半身種目（ゴブレットスクワット、フロントランジなど）10種目の実践
5	ダンベル種目の習得（下半身②）	下半身種目（デッドリフト、オーバーヘッドスクワットなど）10種目の実践
6	ダンベル種目の習得（体幹部）	体幹種目（ロシアンツイスト、Vシットなど）10種目の実践
7	おさらいと指導方法	今まで行ったダンベル種目の中から主要なものを選びおさらいを行う。効果的な指導方法について学ぶ 基本種目をピックアップし、お互いに指導を行う
8	バーベル種目のテクニックと ビック3の習得	バーベル種目に必要な道具やアクセサリの扱い方を学ぶ・ラックの安全なセットアップの実践 ビック3の実践

9	バーベル種目の習得（上半身①）	上半身種目（ベンチプレス、ベントオーバーロウなど）10種目の実践
10	バーベル種目の習得（上半身②）	上半身種目（フロントレイズ、アームカールなど）10種目の実践
11	バーベル種目の習得（下半身①）	下半身種目（スクワット、フロントランジなど）10種目の実践
12	バーベル種目の習得（下半身②）	下半身種目（ヒップスラスト、デッドリフトなど）10種目の実践
13	バーベル種目の習得（体幹、クリーン）	体幹種目および全身種目（クリーン、スナッチなど）の実践
14	おさらいと指導	今まで行ったバーベル種目の中から主要なものを選びおさらいを行う 基本種目をピックアップし、お互いに指導を行う
15	ミニセッションをしよう	ダンベル・バーベル種目から3～4種目を組み合わせ、お互いにミニセッションを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インストラクター理論と実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	インストラクター理論と実践Ⅱ		
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	単位数	3
時間数					45
使用教材	機能解剖学基礎/NESTA PFT/パーソナルトレーニング101 / ポケ模型		出版社	NESTA JAPAN	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で活躍するインストラクターになる為には人体の仕組みを学ぶことが必要であることを理解する。</li> <li>・トレーニングと紐づけながら、基本的な体の仕組みを理解する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な機能解剖学を理解し、トレーニング指導に結び付けられるような知識を修得する。</li> <li>・体の構造やメカニズム、様々な動きの種類や機能を理解している。</li> </ul>				
評価基準	試験：60% 授業態度：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	NESTA PFT				
関連科目	トレーニング実践Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	桑崎 寛 他2名	実務経験	○		
実務内容	Tipnessクオリティスーパーバイザー兼パーソナルトレーナー、日本テレビ「ダイエットヴィレッジ」メイントレーナーの経験を基に、トレーニング指導に結び付けられるような知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	トレーナー・インストラクターとは 運動前後のストレッチ	ポケ模型の使い方、授業の進め方の確認（実技との運動について説明） トレーナー・インストラクターとして大切なことについて学ぶ 部位ごとのストレッチについて学び、今後のウォームアップとクールダウンに取り入れられるようにする
2	概論・骨格筋の機能解剖学①	機能解剖学の基本について学ぶ
3	概論・骨格筋の機能解剖学②	運動単位、サルコメアの長さ、骨格筋の役割、骨格筋の形状、筋繊維タイプ、筋収縮の様式について学ぶ
4	上半身のトレーニング種目と機能解剖学	上半身のトレーニング種目から筋肉と機能を学ぶ
5	下半身・体幹のトレーニング種目と機能解剖学	下半身・体幹のトレーニング種目から筋肉と機能を学ぶ
6	骨格・関節の機能解剖学	骨を学ぶ意図、骨の基礎知識と役割、骨の種類、全身の骨格について学ぶ 関節についての基礎知識と関節の種類、関節可動域と安定性について学ぶ
7	前半のまとめと振り返り	前半のまとめとおさらいを行う
8	体幹と脊柱の機能解剖学	体幹の筋肉と脊柱の基礎知識、脊柱の関節・筋の特徴を学ぶ 脊柱の可動域、呼吸筋、腹部の筋肉について学ぶ

9	肩甲帯と肩関節の機能解剖学	肩甲帯や肩関節の骨や関節について学ぶ 肩甲骨の動きや周囲の筋肉について学ぶ
10	骨盤帯と股関節の機能解剖学	骨盤帯と股関節の基礎知識、骨盤帯、大腿骨、股関節について学ぶ 骨盤帯と股関節の動き、周囲の筋肉について学ぶ
11	運動生理学①	運動をしておこる体の変化について学ぶ 神経系、エネルギー代謝について学ぶ
12	運動生理学②	運動をしておこる体の変化について学ぶ 呼吸器、循環器について学ぶ
13	機能解剖学・生理学の復習	機能解剖学および生理学のポイントをおさらいする
14	半期のまとめと振り返り	半期の復習及びまとめを行う
15	フィードバックと 半年間の学びのまとめ	半年間行ってきたトレーニング種目及び学びの内容のまとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インストラクター理論と実践III		
必修選択	選択	(学則表記)	インストラクター理論と実践III		
				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	3	45
使用教材	パーソナルトレーニング101/NESTA PFT		出版社	NESTA JAPAN	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントの評価とプログラミング、個人とグループの指導ができるようになる。</li> <li>・エクササイズボール種目を実践し、指導できるようになる。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・60分のプログラムを組み立て、セッションすることができる。</li> <li>・グループプレッスンプログラムを組み立てできるようになる。</li> <li>・エクササイズボールトレーニングを習得できる。</li> </ul>				
評価基準	実技・指導実践：60% 授業態度・意欲：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	NESTA PFT				
関連科目	インストラクター理論と実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	朝野 翔 他1名	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の振り返り クライアントへの指導について	「インストラクター理論と実践Ⅰ」で行った内容のおさらい クライアントへの指導方法について学ぶ
2	評価	10RM テストの実践 評価方法について学ぶ（トレーニング種目）
3	ダンベルプログラムの実践	ダンベルプログラムの指導実践を行う
4	バーベルプログラムの実践	バーベルプログラムの指導実践を行う
5	プログラムの指導・実践	「インストラクター理論と実践Ⅳ：4週目」にて作成したプログラムの指導実践
6	エクササイズボールの基本と エクササイズの実践①	エクササイズボールの取り扱いと注意点、効果やメリットについて学ぶ チェストプレス、ショルダープレスなど10種目の実践
7	エクササイズボール エクササイズの実践②	スクワット、クランチなど15種目の実践

8	エクササイズボール エクササイズの実践③	バイククランチ、ヒップレイズなど15種目の実践
9	エクササイズボール エクササイズの実践④	マウンテンクライマー、スーパーマンなど10種目の実践と復習
10	エクササイズボール プログラムの実践	エクササイズボールプログラムを実践する
11	プログラム設計のおさらい	プログラム設計のおさらいと、グループレッスンのポイントについて学ぶ
12	グループレッスンのプログラミングと実践と発表（準備）	グループに別れ、今まで実践した種目（ダンベル・バーベル・エクササイズボール・ストレッチ）を元に30分のグループレッスンプログラムを作成する。
13	グループレッスンのプログラミングと実践と発表（発表①）	作成したプログラムについて、他グループの生徒をお客様に見立てて指導実践を行う
14	グループレッスンのプログラミングと実践と発表（発表②）	
15	1年間のおさらいとまとめ	プログラミングのフィードバック及び1年間のまとめ 2年次に学ぶことにも触れ、モチベーションを高める

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インストラクター理論と実践Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	インストラクター理論と実践Ⅳ		
				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	3	45
使用教材	機能解剖学基礎/NESTA PFT/パーソナルトレーニング101 /ポケ模型		出版社	NESTA JAPAN	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で安全に指導し、活用できる知識を修得する。</li> <li>・個人に合わせたプログラミングの作成や評価ができるようになる。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法や生体力学などを理解し、運動指導に結び付けられるような知識を修得する。</li> <li>・様々なクライアントに合わせたプログラミングの組み立てができる</li> </ul>				
評価基準	試験：60% 授業態度：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	NESTA PFT				
関連科目	インストラクター理論と実践Ⅰ～Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	朝野 翔 他1名	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	評価	ガス測定、体組成の評価方法について学ぶ 3分間ステップテスト、フィットネス評価について学ぶ
2	プログラム設計①	プログラムの考え方について学ぶ プログラムの作成方法とトレーニングピラミッドについて学ぶ
3	プログラム設計②	目的別のプログラムの作成方法について学ぶ カウンセリングについて学ぶ
4	プログラム設計③	実際に、初心者向けの30分間のプログラムを作成する
5	生体力学	物理の法則について理解し、運動する際の力の重心や関節トルク、関節パワーといった身体で起こる力学的な現象を学ぶ
6	柔軟性	柔軟性の基本と主要筋群のストレッチの実践 ウォーミングアップとクールダウンについて学ぶ
7	ストレッチのプログラムと実践	「インストラクター理論と実践Ⅳ」にて学んだストレッチ種目およびパーソナルトレーニング101テキスト内のストレッチ種目を元に、ストレッチプログラムの作成を行う
8	前半のおさらいとまとめ	前半のまとめとおさらいを行う

9	特別な集団①	特別な集団に対する指導の注意点やポイントを学ぶ
10	特別な集団②	体脂肪減少・ダイエットのプログラムの実践
11	肘関節と橈尺関節の機能解剖学	肘関節と橈尺関節 基礎知識、骨、関節、筋肉について学ぶ
12	膝関節の機能解剖学	膝関節の基礎知識、骨、関節、筋肉について学ぶ
13	手関節と足関節の機能解剖学	手関節と手の基礎知識、手関節と手をなす筋肉の起始停止及び動きについて学ぶ 足関節と足の基礎知識、足関節と足の動きと筋肉について学ぶ
14	半年間のおさらいとまとめ	今までの学びの復習を行う
15	フィードバックと 1年間の学びのまとめ	1年間行ってきたトレーニング種目及び学びの内容のまとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	スタジオエクササイズⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	スタジオエクササイズⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	健実養成テキスト		出版社	健康・体づくり事業財団	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	グループエクササイズ指導の基礎知識を修得する。				
到達目標	レジスタンスエクササイズとストレッチングエクササイズのグループエクササイズ指導ができるようになる。				
評価基準	試験/レポート：60% 提出物：20% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者				
関連科目	スタジオエクササイズⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武井 亮子	実務経験		○	
実務内容	フィットネスインストラクターとして、スポーツクラブの社員として2年半勤務し、現在フリーランス(14年目)で活動をし、スポーツインストラクター・講師業・子育て支援事業などの様々な経験を基に、動きの評価とトレーニングの選択指導法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	健康運動実践指導について・インストラクターが資格を持つ意義 グループエクササイズの基礎・インストラクターの役割、正しい姿勢
2	レジスタンスエクササイズ①	体験、パート別動作練習、正しい動作
3	レジスタンスエクササイズ②	パート別動作練習、指導練習
4	レジスタンスエクササイズ③	パート別動作練習、指導練習
5	レジスタンスエクササイズ④	動作指導
6	レジスタンスエクササイズ⑤	動作指導、振り返り
7	総合演習①	レジスタンスエクササイズ指導
8	レジスタンスエクササイズ	上級レジスタンストレーニング

各回の展開		
回数	単元	内容
9	ストレッチングエクササイズ①	体験、パート別動作練習・正しい動作
10	ストレッチングエクササイズ②	パート別動作練習、指導練習
11	ストレッチングエクササイズ③	パート別動作練習、指導練習
12	ストレッチングエクササイズ④	動作指導
13	ストレッチングエクササイズ⑤	動作指導、振り返り
14	総合演習②	ストレッチングエクササイズ指導
15	ストレッチングエクササイズ⑥	上級ストレッチングエクササイズ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	スタジオエクササイズⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	スタジオエクササイズⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	健実養成テキスト		出版社	健康・体力づくり事業財団	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	グループエクササイズ指導の基礎知識を修得する。				
到達目標	ウォーキングエクササイズとエアロビックダンスエクササイズのグループエクササイズ指導ができるようになる。				
評価基準	試験/レポート：60% 提出物：20% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者				
関連科目	スタジオエクササイズⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武井 亮子	実務経験	○		
実務内容	フィットネスインストラクターとして、スポーツクラブの社員として2年半勤務し、現在フリーランス(14年目)で活動をし、スポーツインストラクター・講師業・子育て支援事業などの様々な経験を基に、動きの評価とトレーニングの選択指導法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 有酸素運動のグループエクササイズ	レジスタンスエクササイズ、ストレッチングエクササイズの振り返りおよび後期内容の確認 有酸素運動のグループエクササイズの基礎
2	ウォーキングエクササイズ①	体験、パート別動作練習・正しい歩き方
3	ウォーキングエクササイズ②	パート別動作練習、指導練習
4	ウォーキングエクササイズ③	
5	ウォーキングエクササイズ④	動作指導
6	ウォーキングエクササイズ⑤	動作指導、振り返り
7	総合演習①	ウォーキングエクササイズ指導
8	ウォーキングエクササイズ⑥	上級ウォーキングエクササイズ

各回の展開		
回数	単元	内容
9	エアロビックダンスエクササイズ①	体験、パート別動作練習・正しい動作
10	エアロビックダンスエクササイズ②	パート別動作練習、指導練習
11	エアロビックダンスエクササイズ③	
12	エアロビックダンスエクササイズ④	動作指導
13	エアロビックダンスエクササイズ⑤	動作指導、振り返り
14	総合演習②	エアロビックエクササイズ指導
15	エアロビックダンスエクササイズ⑥	上級エアロビックエクササイズ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	トレンドエクササイズⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドエクササイズⅠ		
開講					
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	単位数	2
時間数					30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	運動指導の現場で実際に行われているプログラムを体験し、その効果や魅力を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したプログラムの魅力や効果を自分の言葉で説明できる。</li> <li>・体験したプログラムの基礎的な動作のポイントを理解し、実践できる。</li> <li>・プログラムの体験を通じて、運動指導者として最低限必要な体力を養う。</li> </ul>				
評価基準	試験：60% レポート：20% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	ラディカルフィットネスオフィシャルトレーナー				
関連科目	トレンドエクササイズⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小熊 悟史 他4名	実務経験	○		
実務内容	ラディカルフィットネスのオフィシャルトレーナーとして活動している。運動を安全で効果的で楽しくを伝えられるように授業を展開する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ラディカルパワー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の概要、評価方法などの確認</li> <li>・バーベルを使用した筋コンディショニングプログラム「ラディカルパワー」を体験する</li> </ul>
2	ラディカルパワー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーベルを利用したトレーニングのフォーム練習</li> <li>・ラディカルパワーのプログラム体験</li> </ul>
3	ラディカルパワー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なエアロビクス、ステップエクササイズの基本動作練習</li> <li>・パワーカーディオのプログラム体験</li> </ul>
4	ラディカルパワー④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋コンディショニング系のエクササイズの特徴や効果</li> <li>・パワーカーディオのプログラム体験 ●小テスト</li> </ul>
5	ファイドウ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本バンチのフォーム練習</li> <li>・格闘技エクササイズ「ファイドウ」のプログラム体験</li> </ul>
6	ファイドウ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本キックのフォーム練習</li> <li>・ファイドウのプログラム体験</li> </ul>
7	ファイドウ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムエタイ、空手などで使う動作のフォーム練習</li> <li>・ファイドウのプログラム体験</li> </ul>
8	ファイドウ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイドウのプログラム体験</li> <li>・格闘技系エクササイズの特徴や効果 ●小テスト</li> </ul>

9	オキシジェノ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムで使用するヨガの動作のフォーム練習</li> <li>・調整系プログラム「オキシジェノ」の体験</li> </ul>
10	オキシジェノ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムで使用するピラティスの動作のフォーム練習</li> <li>・オキシジェノのプログラム体験</li> </ul>
11	オキシジェノ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムで使用する太極拳や、その他の動作のフォーム練習</li> <li>・オキシジェノのプログラム体験</li> </ul>
12	オキシジェノ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調整系プログラムの特徴や効果</li> <li>・オキシジェノのプログラム体験 ●小テスト</li> </ul>
13	メガダンス①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャズダンスの基本（アイソレーション）とHIP HOPの基本（アップとダウン、基本ステップ）</li> <li>・ダンス系プログラム「メガダンス」の体験</li> </ul>
14	メガダンス②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテンダンスの基本（姿勢、マーチ、レッスンで使う基本ステップ）</li> <li>・メガダンスのプログラム体験</li> </ul>
15	メガダンス③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガダンスのプログラム体験</li> <li>・ダンス系プログラムの特徴や効果 ●小テスト</li> </ul>

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	トレンドエクササイズⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドエクササイズⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	運動指導の現場で実際に行われているプログラムの指導を体験し、インストラクターという仕事の魅力を知る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム指導の体験をし、人前で話すことや指導することに慣れ、抵抗を減らす。</li> <li>・プログラム指導の体験を通じて、インストラクターという仕事の魅力や、難しさを知る。</li> <li>・プログラムの体験を通じて、運動指導者として最低限必要な体力を養う。</li> </ul>				
評価基準	試験：60% レポート：20% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	ラディカルフィットネスオフィシャルトレーナー				
関連科目	トレンドエクササイズⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小熊 悟史 他3名	実務経験	○		
実務内容	ラディカルフィットネスのオフィシャルトレーナーとして活動している経験を基に、運動を安全で効果的で楽しくを伝えられるように授業を展開する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ラディカルパワー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の概要、評価方法などの確認</li> <li>・バーベルを使用した筋コンディショニングプログラム「ラディカルパワー」を体験する</li> </ul>
2	ラディカルパワー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラディカルパワーのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・キューイングの基本</li> </ul>
3	ラディカルパワー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーカーディオのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・ビジュアルキューイングの活用を意識した指導体験</li> </ul>
4	ラディカルパワー④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーカーディオのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・コミュニケーション(指導の循環)を意識した指導体験 ●小テスト</li> </ul>
5	ファイドウ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイドウのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・キューイングの基本を意識した指導体験</li> </ul>
6	ファイドウ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイドウのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・ビジュアルキューイングを意識した指導体験</li> </ul>
7	ファイドウ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイドウのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・指導の循環を意識した指導体験</li> </ul>
8	ファイドウ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイドウのプログラム体験(30分程度のショートクラス)</li> <li>・パフォーマンスを意識した指導体験 ●小テスト</li> </ul>

9	オキシジェノ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オキシジェノのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・キューイングの基本を意識した指導体験</li> </ul>
10	オキシジェノ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オキシジェノのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・ビジュアルキューイングを意識した指導体験</li> </ul>
11	オキシジェノ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オキシジェノのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・指導の循環を意識した指導体験</li> </ul>
12	オキシジェノ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オキシジェノのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・パフォーマンスを意識した指導体験 ●小テスト</li> </ul>
13	メガダンス①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガダンスのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・キューイングの基本を意識した指導体験</li> </ul>
14	メガダンス②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガダンスのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・指導の循環を意識した指導体験</li> </ul>
15	メガダンス③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガダンスのプログラム体験（30分程度のショートクラス）</li> <li>・パフォーマンスを意識した指導体験 ●小テスト</li> </ul>

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	スポーツストレッチ実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツストレッチ実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	スポーツストレッチング		出版社	日本ストレッチング協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	各ストレッチングに関する正しい知識と技能を習得し、スタティックストレッチングをリードアップする技能を習得する。ストレッチングを通して身体に触れ、身体に対する理解を深める。				
到達目標	スタティックセルフストレッチングのリードアップができる。 スタティックパートナーストレッチングの実践ができる。 機能解剖学を理解し、クライアントの状態に合わせた柔軟な思考を元に指導ができる				
評価基準	試験80%、授業態度 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツストレッチ実践Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤 廣之 他2名	実務経験	○		
実務内容	大手スポーツクラブや個人経営ジムにおいて、パーソナルトレーナーとして18年以上勤務している経験を基に、スポーツトレーナーに必要なストレッチングに関する正しい知識と技能を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ストレッチングとは	本授業の目的・意義・今後の流れを説明 ストレッチングとは・各関節の動作の名称・ストレッチ体験
2	大腿四頭筋の評価と実施	代償運動とリスク管理 大腿四頭筋の評価とセルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
3	ハムストリングスの評価と実施	ハムストリングスの評価とセルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
4	長内転筋・大内転筋・薄筋・恥骨筋・大腿筋膜張筋・縫工筋の実施	評価とセルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
5	足底筋群・前脛骨筋・ヒラメ筋 腓腹筋の実施	評価とセルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
6	腸腰筋・腹直筋・腹斜筋 腰方形筋・脊柱起立筋の実施	評価とセルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
7	大殿筋・中殿筋・深層外旋六筋の実施	評価とセルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
8	大胸筋・小胸筋・前鋸筋の実施	セルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する

9	広背筋・菱形筋の実施	セルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
10	上腕二頭筋・上腕三頭筋 前腕伸筋群・前腕屈筋群の実施	セルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
11	頸部・三角筋・菱形筋・ローテーターカ フ・僧帽筋・肩甲挙筋・胸鎖乳突筋の実 施	セルフ、パートナーのスタティックストレッチングを実施する
12	セルフストレッチング・パートナースト レッチングのパターンの実施	フロアーベースにてセルフストレッチングパターン、パートナーストレッチングパターンを実施する
13	スタティックパートナーストレッチング 実技試験	パートナー1部位の実施と実施部位の筋の機能、代償、リスク管理を口頭試問
14	筆記試験・スタティックセルフストレッ チング実技試験	筆記試験・セルフ1部位をクラスメイト全員に向けてリードアップする
15	授業まとめ	授業のまとめ・総論

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	スポーツストレッチ実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツストレッチ実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	スポーツストレッチング		出版社	日本ストレッチング協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツトレーナーにとって必要不可欠なストレッチングに関する正しい知識と技能を習得する。 スポーツトレーナーに必要なストレッチングに関する正しい知識と技能を学習する。				
到達目標	クライアントの状況に合わせたクリエイティブなセルフストレッチング、パートナーストレッチングを立案、実施することができる。				
評価基準	試験80%、授業態度 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツストレッチ実践Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤 廣之 他1名	実務経験	○		
実務内容	大手スポーツクラブや個人経営ジムにおいて、パーソナルトレーナーとして18年以上の実務経験を基に、スポーツトレーナーに必要なストレッチングに関する正しい知識と技能を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	道具を用いたセルフストレッチング	フォームローラー（ボール）を用いてセルフストレッチングの応用を実施する
2	評価と軟部組織リリース	各種評価を行い、道具（ボールやポール）を使用した軟部組織リリースを実施する。実施後に再評価をする
3	上肢ストレッチングプログラム	上肢のベッドサイドのパートナーストレッチングを実施する
4	上肢ストレッチングプログラム	上肢のベッドサイドのパートナーストレッチングを実施する
5	下肢ストレッチングプログラム	下肢のベッドサイドのパートナーストレッチングを実施する
6	下肢ストレッチングプログラム	下肢のベッドサイドのパートナーストレッチングを実施する
7	PNF理論を応用したストレッチング	各部位にPNF応用ストレッチングを実施する
8	ダイナミック・バリスティックストレッチング	ダイナミックストレッチング、バリスティックストレッチングの違いを理解し、実施する
9	スポーツ外傷・障害とストレッチング	スポーツ外傷と障害を理解し、その為のストレッチングを実施する

10	ウォーミングアップとクールダウン	各競技種目特性を理解してグループでウォーミングアップ（ダイナミックとバリスティック）、クールダウン（スタティックセルフ）を考える
11	ウォーミングアップとクールダウン	各競技種目特性を理解してグループでウォーミングアップ（ダイナミックとバリスティック）、クールダウン（スタティックセルフ）を考える
12	ウォーミングアップとクールダウン	各競技種目特性を理解してグループでウォーミングアップ（ダイナミックとバリスティック）、クールダウン（スタティックセルフ）を考え、発表する
13	ベッドサイドスタティックパートナーストレッチング実技試験	パートナー1部位の実施と実施部位の筋の機能、代償、リスク管理を口頭試問
14	筆記試験・スタティックセルフストレッチング実技試験	筆記試験・セルフ1部位をクライアントの要望に合わせてリードアップする
15	授業まとめ	授業のまとめ・総論

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツ栄養学ⅠA		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツ栄養学ⅠA		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 結果につなげる身体の栄養学		出版社	南江堂 日本栄養コンシェルジュ協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。				
到達目標	スポーツ栄養学の基礎を理解し、スポーツの現場に必要な食生活全般の指導に積極的に関わることができる。関連資格取得に求められる内容の理解ができる。				
評価基準	試験/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者				
関連科目	スポーツ栄養学ⅠB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中村雅美	実務経験		○	
実務内容	大学病院やクリニック、人間ドック健診センター、プロ野球やプロサッカーチームなどで栄養指導やサポートを行い管理栄養士として25年以上、健康づくりやスポーツ現場などに関わってきた経験を基に、五大栄養素など運動指導に必要な栄養学の基礎を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 健康づくりの栄養戦略①	ガイダンス(概要説明) 健康日本21、食事バランスガイド、食生活指針
2	健康づくりの栄養戦略②	日本人の食事摂取基準、食生活指針、食育基本法
3	食品群	3色食品群、4つの食品群、6つの基礎食品、食品カテゴリーマップ、食品カテゴリー管理の実践
4	基礎栄養学①	栄養成分の由来・成り立ち、食物連鎖、五大栄養素の役割、糖質
5	基礎栄養学②	脂質について
6	基礎栄養学③	タンパク質について PFC比について
7	基礎栄養学④	ビタミンについて ミネラルについて
8	まとめ	重要点の振り返りとケーススタディ
9	エネルギー消費量の推定	エネルギー代謝とエネルギー消費量の構成要素 メッツ値

## 各回の展開

回数	単元	内容
10	エネルギーバランスと体重調整 減量	食欲の仕組み、肥満のメカニズム、絶食時のエネルギー代謝、身体組成と測定法、BMIと体脂肪率
11	エネルギーバランスと体重調整 増量	筋肉づくりの基本原則と増量の計画
12	エネルギーバランスと体重調整 減量と増量	減量・増量計画と食事の注意点
13	水分摂取 サプリメント	水分摂取のガイドラインについて サプリメントについて
14	前期まとめ①	重要点の振り返り
15	前期まとめ②	重要点の振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツ栄養学ⅠB		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツ栄養学ⅠB		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 結果につなげる身体の栄養学		出版社	南江堂 日本栄養コンシェルジュ協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。				
到達目標	スポーツ栄養学の基礎を理解し、スポーツの現場に必要な食生活全般の指導に積極的に関わることができる。 関連資格取得に求められる内容の理解ができる。 様々な症例に対する適切な栄養アドバイスができるようになる。				
評価基準	試験/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者				
関連科目	スポーツ栄養学ⅠA				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中村雅美	実務経験	○		
実務内容	大病院やクリニック、人間ドック健診センター、プロ野球やプロサッカーチームなどで栄養指導やサポートを行い管理栄養士として25年以上、健康づくりやスポーツ現場などに関わってきた経験を基に、五大栄養素など運動指導に必要な栄養学の基礎を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 生活習慣病、運動時の栄養・食生活	生活習慣病の種類それぞれの理解と栄養指導 サプリメントに対する考え方と過剰摂取による健康障害
2	持久力、体力づくりと栄養・食生活 貧血と栄養・食生活	持久力向上のための食事指導、筋力向上、筋肥大のための食事指導 血液循環、リンパ管、三大栄養素の循環経路、鉄欠乏性貧血の原因、症状、アセスメント、食事療法
3	女性と栄養・食生活	月経障害、利用可能エネルギー不足、骨粗鬆症
4	高齢者と栄養・食生活	サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム
5	まとめ	重要点の振り返りとケーススタディ
6	消化吸収と栄養実践①	消化吸収に関わる消化管について
7	消化吸収と栄養実践②	栄養素の消化と吸収
8	消化吸収と栄養実践③	消化管の消化吸収の連携

各回の展開		
回数	単元	内容
9	栄養の循環と実践	栄養の血液循環
10	まとめ	重要点の振り返りとケーススタディ
11	栄養による細胞管理①細胞構造 栄養による細胞管理②脂肪細胞	細胞の構造 脂肪細胞の構造と働き
12	栄養による細胞管理③骨格筋細胞 栄養による細胞管理④肝臓細胞	骨格筋細胞の構造と働き 肝臓細胞の構造と働き
13	まとめ	重要点の振り返りとケーススタディ
14	後期まとめ①	重要点の総復習、ケーススタディ
15	後期まとめ②	重要点の総復習、ケーススタディ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	運動障害の予防と救急処置ⅠA		
必修選択	必修	(学則表記)	運動障害の予防と救急処置ⅠA		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 運動指導者のための救急対応バイブル		出版社	健康・体力づくり事業財団 一般財団法人スポーツアライアンス	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	運動指導を行う上で欠かせない、内科的および外科的障害に関する知識とその救急処置の方法を学習する。				
到達目標	内科的および外科的障害・外傷を理解し、救急処置を実践することができる。				
評価基準	試験/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者				
関連科目	運動障害の予防と救急処置ⅠB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浅井隆之	実務経験		○	
実務内容	Polar Bear Trainer's Teamでアスレティックトレーナーとして10年勤務をした経験を基に、運動指導を行う上で欠かせない内科的・外科的障害に関する知識とその救急処置法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 救急対応概論①	本授業の目的・意義・今後の流れを説明 ケガの発生状況と求められる救急対応
2	救急対応概論②	ケガの状態把握の方法
3	運動前の内科的メディカルチェック	メディカルチェックの項目
4	運動中止の判定	スポーツ参加当日のセルフチェック 運動中止が必要な運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候
5	内科的な急性障害①	突然死 虚血性心疾患の危険因子
6	内科的な急性障害②	熱中症① 熱中症分類、熱中症の原因
7	内科的な急性障害③	熱中症② 熱中症の対応
8	内科的な急性障害④	熱中症③ 熱中症の予防法

9	内科的な急性障害⑤	過換気症候群・運動誘発性喘息・運動時側腹部痛・運動誘発アナフィラキシー
10	内科的な慢性障害	貧血・オーバートレーニング症候群
11	救急処置 救急蘇生法①	一次救命処置の基礎知識、救命の連鎖、突然死の予防、一次救命処置の手順
12	救急処置 救急蘇生法②	胸骨圧迫・人工呼吸・AED使用の手順
13	救急処置 救急蘇生法③	気道異物、子どもの一次救命処置、新型コロナウイルス感染症流行期への対応
14	救急処置 救急蘇生法④	一次救命処置の実際
15	まとめ	前期のまとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	運動障害の予防と救急処置ⅠB		
必修選択	必修	(学則表記)	運動障害の予防と救急処置ⅠB		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 養護教諭のための救急対応パイブル		出版社	健康・体力づくり事業財団 一般財団法人スポーツアライアンス	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	運動指導を行う上で欠かせない、内科的および外科的障害に関する知識とその救急処置の方法を学習する。				
到達目標	内科的および外科的障害・外傷を理解し、救急処置を実践することができる。				
評価基準	試験/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者				
関連科目	運動障害の予防と救急処置ⅠA				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浅井隆之	実務経験		○	
実務内容	Polar Bear Trainer's Teamでアスレティックトレーナーとして10年勤務をした経験を基に、運動指導を行う上で欠かせない内科的・外科的障害に関する知識とその救急処置法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の復習	前期重点項目の振り返り
2	ファーストエイド①	ファーストエイドの基礎知識、傷病者の体位と移動、気管支喘息発作、アナフィラキシー、低血糖、けいれん、失神、熱中症、低体温症
3	ファーストエイド②	すり傷・切り傷、出血、捻挫・打ち身・骨折、首の安静、やけど、歯の損傷、毒物、溺水
4	救急処置 応急手当①	外傷の分類、挫傷に対する基本的な救急対応「RICE処置」
5	救急処置 応急手当②	RICE処置の物品・氷の種類、各部位・外傷に対するRICE処置
6	救急処置 応急手当③	RICE処置の実際
7	創傷処置・止血法①	創傷・出血の種類、創傷処置、湿潤療法、創傷処置の物品
8	創傷処置・止血法②	直接圧迫止血法・止血点圧迫止血法、創傷処置の流れ、洗浄、保護（湿潤療法）の流れ

9	創傷処置・止血法③	創傷処置・止血法の実際
10	傷害の症状と対応①	母指の捻挫・靭帯損傷、母指の脱臼骨折、突き指 外傷性骨折、疲労骨折、病的骨折
11	傷害の症状と対応②	捻挫の重症度、足関節の靭帯損傷、膝関節の靭帯損傷、半月板損傷
12	傷害の症状と対応③	急性腰痛、筋・筋膜性腰痛、後腸骨稜骨端炎、腰椎分離症、椎間板ヘルニア 頭を強く打ったときの対処法
13	テーピング①	テーピングの基本、テーピングの使用方法
14	テーピング②	テーピングの実際
15	まとめ	後期のまとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	運動指導の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	運動指導の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	健康運動実践指導者養成テキスト NESTA		出版社	南江堂 大修館書店	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	健康行動に影響を与えるさまざまな要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響について、また個別指導における動機づけとカウンセリングの方法を理解する。				
到達目標	運動と心との関係、行動変容の理論を理解し、対象者の目的・志向に合わせた指導、カウンセリングの方法を検討し、トレーニング指導者としての適切な関わり方について考察することができる。				
評価基準	試験/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	久保 香	実務経験		○	
実務内容	スイミングクラブ 水泳水中運動指導、指導者教育（30年）、江東区スポーツ課幼児運動指導（5年）、厚木市スポーツ課高齢者運動指導、高齢者水中運動指導（8年）秦野市スポーツ課地域水泳指導（10年）として勤務した経験を基に、運動指導を行う上で欠かせない運動と心との関係を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ガイダンス(概要説明)
2	心理学について	運動心理学とは 学ぶ必要性 歴史
3	運動指導の心理学的基礎（1）	運動実践にかかわる3つの要因 回復への3つのレベル
4	運動指導の心理学的基礎（2）	運動による心理社会的効果とその効果を高める要因 運動に関連する心理的特性と問題
5	運動指導の心理的基礎（3）	運動の採択、継続、停止の予防のための理論・モデルおよび技法 行動変容ステージモデル
6	運動指導の心理的基礎（4）	参加者を得るための留意点 指導と受講のミスマッチ
7	運動指導の心理的基礎（5）	個別指導における動機づけとカウンセリング方法
8	指導者としてのかかわり方（1）	集中力について

9	指導者としてのかかわり方（2）	アドヒアランスと欲求の関係
10	指導者としてのかかわり方（3）	クライアントの動機付けの方法 内発的・外発的動機付け
11	指導者としてのかかわり方（4）	クライアントのモチベーションに関する心理学
12	運動指導の科学（1）	心理学と生理学
13	運動指導の科学（2）	神経性無食欲症 身体醜形障害
14	カウンセリング実践①	人物像を設定したロールプレイの実践①
15	カウンセリング実践② まとめ	人物像を設定したロールプレイの実践② まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身に付ける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松田 今日花 他1名	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ

6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すこと大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的 success）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松田 今日花 他1名	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
3	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
4	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
5	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを知る

6	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
7	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
8	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
9	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
10	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
11	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
12	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
13	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
14	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
15	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅰ		
				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	Essencial Life		出版社	NESTA JAPAN	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した大人として生きる準備をする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生をコントロールする方法を学び、自分にとっての「成功」とキャリアについて考える。</li> <li>・目標を持って仲間と学ぶことの重要性を理解する。</li> <li>・健全な人間関係構築のための考え方やお金との付き合い方について理解する。</li> </ul>				
評価基準	授業態度：20% / 提出物：40% / 発表：20% / レポート：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格					
関連科目	キャリア教育Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	大久保 美優 他1名		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	「大人になる」ために 自分の人生をコントロールするには	「大人として人生を見る」とは？ 自己管理、関係構築、社会的責任の理解と実践方法を知る
2	何を望み、それをどう得るか？	日常の小さな選択から人生の大きな決断まで、自分の望みを見極め、それを実現する方法を学ぶ
3	変化する世界をどう生きるか？	変化する世界に適応し、テクノロジーやSNSなどの倫理的な使い方を学ぶ
4	人間と社会性 友情の役割とその育て方	友情の大切さ、質の高い友人関係の築き方と維持方法、及び人間関係の影響力について学ぶ
5	家族の中の自分 恋愛における人間関係	家族内での役割と責任の重要性、家族の絆、お互いを支え成長する方法を学ぶ 恋愛における自己理解と相手との健康的な関係構築方法を学ぶ
6	効果的なコミュニケーションスキル	効果的なコミュニケーションスキルの基礎と、会話の始め方、対立した場合の解決方法を学ぶ
7	キャリアの形成と職業選択	自分の興味・適性に合った仕事を見つけ、キャリア形成の方法を学び、履歴書・エントリーシート等の就職の手順を学ぶ
8	仕事で成功する方法	新しいスキル習得やプロフェッショナルな印象を与える服装選び、インポスター症候群の克服方法を学び、職場で成功する基盤を築く

9	「給料」について考える	お金の大切さと賢い使い方を学び、給与計算、税金、貯蓄、投資の基礎知識を学ぶ
10	住まいと車の選び方	一人暮らしの準備と管理、自宅の役割、適切な住まいの選び方、賃貸と購入の比較、引越しの計画、生活空間のデザイン、安全な住環境の確保、適切な交通手段の選択方法を学ぶ
11	楽しく健康的に食べる・栄養の基本	栄養の基本、健康維持方法、健康的な食事習慣形成、健康的に食べる方法を学ぶ
12	メンタルヘルス	メンタルヘルスの基礎、困難への対処法、薬物乱用問題などについて学ぶ
13	生活の中での予期せぬ事態への備え	予期せぬ事態に備える重要性やメンテナンス、電気・水害対策、他者からの助けの求め方を学ぶ
14	責任ある「市民＝社会の一員」であるための方法・失敗から学ぶ未来への教訓	社会人の責任、倫理的行動、社会への積極的な貢献、情報収集の重要性、意思決定を行う自分の役割を学ぶ
15	キャリア教育Ⅰを受けて	前期授業内容の振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅱ		
				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	パーソナルトレーナーの基礎		出版社	NESTA JAPAN	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	業界で成功するための必要なスキルやマインドを習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界で働くことについて、具体的に想像できるようになる。</li> <li>・ビジネスマンとして成功するためのノウハウを理解する。</li> <li>・2年コース選択の前に自分の目指したい方向性について考える。</li> </ul>				
評価基準	授業態度：40% / 提出物：40% / 発表：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	NESTA-PFT				
関連科目	キャリア教育Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	大久保 美優 他1名	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	資格取得 目標の立案とターゲットの選定	目標の立て方と資格の取得、その勉強方法について学ぶ どのようなクライアントをターゲットにするか考える
2	スキルを磨く	トレーナーになるための経験を積む方法や自分自身のトレーニングについて考える プロフェッショナルとは何かを学ぶ
3	ビジネススタイル	どのような働き方があるかを知り、自分に合った働き方を考える 履歴書の書き方を学ぶ
4	成功するパーソナルトレーナーになる①	ビジネスプランや事業計画書の作成方法について学ぶ 広告によるサービスについて学ぶ
5	成功するパーソナルトレーナーになる②	マーケティング計画の作成について学ぶ 支出の見積りや収入の予測を立てる
6	開業の準備	起業家としての税金の処理、ビジネス上の登録業務、方針の決定や管理方法について学ぶ 法人の設立方法について学ぶ
7	ビジネス運営	ビジネスを円滑に運営するための方法や法的書類について学ぶ 会計処理や税金について学ぶ クライアントの情報管理の方法について学ぶ
8	マーケティング	顧客を増やしていくために必要なマーケティング方法やサービスの広め方について学ぶ

9	クライアント維持①	クライアントを維持するための方法について学ぶ
10	クライアント維持②	クライアントに合わせたトレーニングセッションの設定や、メンタルケア、問題を解決する方法を学ぶ
11	成長に備える:ワークフローの自動化と文書化	従業員が組織の中で円滑に仕事を進めるための、業務効率を向上させるワークフローについて学ぶ
12	雇用について	従業員を雇用するにあたっての人材の見つけ方や面接・法律・給与などの設定について学ぶ 従業員のモチベーションの向上やフォローアップについて考える
13	ビジネスカルチャーの確立	リーダーシップやチームの中での役割や接し方など、チーム作りについて学ぶ 自分自身や従業員の成長、研修などのトレーニングについて学ぶ
14	サービスを拡大する10の素晴らしい方法	起業家としての広い視野を学び、サービスを拡大して収益を伸ばすために役立つためのヒントを得る
15	まとめ ～2年次の目標立案～	活躍できる社会人になるために、在学中に挑戦したい目標を立案する

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンディショニング実践ⅠA		
必修選択	選択	(学則表記)	コンディショニング実践ⅠA		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	一般財団法人日本コアコンディショニング協会 オリジナルテキスト		出版社	一般財団法人日本コアコンディショニング協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	健康教育に関わる者として、コアコンディショニングの概念および手法を用いたコンディショニング指導方法を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コアコンディショニングの目的、概要、および、その重要性を説明できる。</li> <li>・コアコンディショニングの手法を適切に使用できる。</li> <li>・コアコンディショニングの手法を用いたパーソナルセッションを実践できる。</li> <li>・JCCAアドバンスト認定試験合格同等の知識と技術を習得する。</li> </ul>				
評価基準	小テスト40%、授業内での指導実践スキル40%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JCCA認定ベーシックインストラクター、JCCA認定アドバンストトレーナー				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	齊藤 廣之	実務経験	○		
実務内容	大手スポーツクラブや個人経営ジムにおいて、パーソナルトレーナーとして18年以上勤務していた経験を基に、その知識を生かし体力要素の測定と評価について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ベーシックセブン体験、到達目標と授業の流れ、JCCAセミナーおよびコアコンディショニングの認定資格
2	ベーシックセブン	コアコンディショニングとは、安全かつ効果的に行うための原理原則、ベーシックセブンの実施
3	ベーシックセブン	小テスト①、ベーシックセブンの指導実践確認
4	アドバンストセブンⅠ	ベーシックセブンの振り返り、アドバンストパッケージ（リアライメントフォー、リセットスリー）の体験
5	アドバンストセブンⅠ	アドバンストセブンⅠの目的、発育発達とコアコンディショニング、原理原則（リアライメントフォー）、ベーシックセブンの振り返り
6	アドバンストセブンⅠ	アドバンストパッケージ（セルフモニタリング①～仰向けセルフモニタリング②）
7	アドバンストセブンⅠ	小テスト②、ベーシックセブン～リアライメントフォーの指導実践確認
8	アドバンストセブンⅠ	振り返り、アドバンストパッケージ（ニュートラルポジション～セッションのまとめ）

9	アドバンストセブンⅠ	ベーシックセブン、リセットスリーの指導練習
10	アドバンストセブンⅡ	小テスト③、アドバンストパッケージの指導実践確認①
11	アドバンストセブンⅡ	アドバンストパッケージ指導実践の振り返り、発育発達とアドバンストパッケージ、インナーユニットの知識の整理
12	アドバンストセブンⅡ	アドバンストセッションの進め方、クライアントの状態把握と目標設定（ヒアリング、簡易ブロック姿勢評価）
13	アドバンストセブンⅡ	クライアントの状態把握と目標設定（ヒアリング～方針の決定と目標設定）、セッションのまとめ
14	アドバンストセブンⅡ	小テスト④、アドバンストパッケージの指導実践確認②
15	総まとめ	振り返り、ストレッチボールを使ったコンディショニングの応用（ソラコン、ベルコン）の紹介

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツ業界に必要な4つのスキル『専門性』『コミュニケーション力』『ビジネス力』『イノベーション(創造する)力』を個々が総合的に身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界のニーズを理解し、自身の提案を形にすることができる。</li> <li>・自身の提案について、完成までのスケジュールを行い、軌道修正しながら完遂することができる。</li> <li>・自分以外の意見や提案を受け入れ、自身の提案のブラッシュアップに繋げることができる。</li> </ul>				
評価基準	プレゼンテーション(個人発表): 30% 提出物(データ提出): 30% 授業態度: 40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	総合演習Ⅱ 総合演習Ⅲ 総合演習Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	小松真太郎	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・到達目標(授業を通して身につける力を理解する)
2	業界理解①	スポーツ業界・ヘルスケア産業の理解を深めていく
3	業界理解②	スポーツ業界・ヘルスケア産業におけるトレンド及び業界の動向を理解する
4	グループ活動	スポーツ業界について学んだ事を活かし自主的に考え、調べ、議論する
5	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションの種類、プレゼンテーションの必要性、プレゼンテーションの構成、コミュニケーションスキルについて理解する
6	PDCAサイクルとスケジュール	PDCAサイクルの構成、スケジュール管理について理解する
7	アプリケーションの解説と実践	PowerPoint/Canva/Googleスライドの活用の基本操作を理解する
8	著作権について、個人活動①	作成にあたり事前に著作権について理解をする。プレゼンテーション内容の設定をしていく。

各回の展開		
回数	単元	内容
9	個人活動②	プレゼンテーション作成①（準備）
10	個人活動③	プレゼンテーション作成②（準備）
11	グループ内発表	グループ内プレゼンテーション発表
12	個人活動④	プレゼンテーション修正
13	発表①	実際のプレゼンテーション及びF B
14	発表②	実際のプレゼンテーション及びF B
15	後期に向けて	後期動画制作に向けてのスケジュール確認 前期振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅱ		
開講					
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	単位数	2
時間数					30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツ業界に必要な4つのスキル『専門性』『コミュニケーション力』『ビジネス力』『イノベーション(創造する)力』を個々が総合的に身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界のニーズを理解し、自身の提案を形にすることができる。</li> <li>・自身の提案について、完成までのスケジューリングを行い、軌道修正しながら完遂することができる。</li> <li>・自分以外の意見や提案を受け入れ、自身の提案のブラッシュアップに繋げることができる。</li> </ul>				
評価基準	プレゼンテーション(動画作成): 30% 提出物(データ提出): 30% 授業態度: 40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅲ 総合演習Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	小松真太郎	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、方向性の確認(授業を通して身につける力を再度理解する)
2	SNSについて	SNSの活用方法及びSNSでの成功事例の紹介
3	動画コンテンツについて	動画コンテンツ制作にあたっての魅力的な見せ方、構成を理解する
4	動画アプリの紹介と活用	動画制作アプリの紹介をして使用できるようにしていく
5	絵コンテについて	絵コンテについての理解と作成
6	動画コンテンツ作成①	構成検討及び決定、絵コンテ作成、素材収集、編集①
7	動画コンテンツ作成②	素材の編集②
8	動画コンテンツ作成③	素材の編集③

各回の展開		
回数	単元	内容
9	クラス内発表①	クラス発表①
10	クラス内発表②	クラス発表②
11	振り返り	動画コンテンツ作成及びプレゼンテーションまでのプロセスの振り返りとFB
12	集客について	集客の方法やポイント、考え方について理解していく
13	集客SNS素材作成①	集客促進に向けた施策を考える①
14	集客SNS素材作成②	集客促進に向けた施策を考える②
15	2年次に向けて	プロセスの中で得たスキルの確認 総合演習Ⅲとの接続

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスマナー		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナー		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人になる上で、就職活動や卒後のキャリアに向けて相応しい立ち居振る舞いや言葉遣い、お客様対応などを習得し、好印象を与えることができるようになる。また就職活動に向けた対策内容も学んでいく。				
到達目標	相手に好印象を与えることができる立ち振る舞い（笑顔・挨拶・言葉遣い等）を習得し、必要な場面に応じた振る舞いができ、就職活動に活かすことができる。				
評価基準	試験/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	業界の動向理解と合わせて、授業目的・今後の流れの説明
2	説明会参加の仕方と留意事項・WEB説明会の方法	説明会の受け方を身につける
3	身だしなみ	身だしなみ（就職活動にふさわしい身だしなみとは？）
4	あいさつと敬語	あいさつの基本・姿勢とお辞儀・立ち居振る舞い ビジネス会話の基本、ビジネスでの言葉遣い、敬語の使い方
5	企業への電話の仕方、訪問の仕方・メール作成方法	企業とのやり取りの仕方を学ぶ、電話対応の基本・電話の受け方・メールのマナーについて
6	ビジネス文書の基本	ビジネス文書の基本ルール ・社内文書・社外文書 ・季節のあいさつと敬称
7	自己PR①	自己PRの書き方を考える
8	自己PR②	自己PRを完成させる

9	企業分析	企業分析を行う 希望する職種 of 企業向け志望動機を作成する
10	履歴書の書き方①	履歴書の作成をする
11	履歴書の書き方②	履歴書の完成をする
12	面接練習	対面・WEB面接の基本を理解し、実践練習を行う
13	面接練習②	実践練習
14	就職活動スケジュール作成①	春休み以降の就職活動のスケジュールを明確化する
15	まとめ	前期の総まとめと、2年次に向けて

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コースセレクト概論		
必修選択	選択	(学則表記)	コースセレクト概論		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	1年次後期コース選択するにあたり、各コースの講義と実技を実施する。				
到達目標	各コースの目指す人物像が理解できており、コース選択を決めるきっかけとなる。				
評価基準	授業態度：60% 提出物：20% 試験：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	各コースの目指す人物像を理解する
2	グループエクササイズ実践	レジスタンスエクササイズ体験、エアロビックダンスエクササイズ体験
3	グループエクササイズ実践	ストレッチエクササイズ体験
4	スポーツインストラクターのお仕事	スポーツインストラクターが働く場所や仕事内容を知る
5	社会性(情緒)を育てるレクリエーション	社会性(情緒)を育てるレクリエーション
6	実技編 マット運動	マット運動の基本の動き「前転・開脚前転・後転・開脚後転」を実践する
7	指導編 マット運動	前転・後転の基本的な指導法と補助法を身につけ指導する
8	こども運動指導者のお仕事	こども運動指導者が働く場所や仕事内容を知る
9	スポーツ業界の市場を調べる	スポーツ業界の市場を調べる。世界のスポーツイベント・世界のスポーツの種類等、既存で開催されているものが多くあるので、それを調べ学習する

10	スポーツイベントを考える	上記で調べたものに対するスポーツイベントを考える
11	スポーツビジネスのお仕事	スポーツビジネス関係のお仕事の内容を知る
12	ダンス実践	アップ・ダウンのリズムを安定させるための基礎トレーニングを学習する。リズムに合わせて体を上下させることで、ビートを体感する練習。
13	トレンドダンス	ヒップホップやジャズ等様々なダンスを学ぶ
14	ダンスに関わるお仕事	ダンスインストラクターが働く場所や仕事内容を知る
15	総まとめ	各コースで展開される授業の総復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	サービスラーニング演習		
必修選択	選択	(学則表記)	サービスラーニング演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」の楽しさを知り、社会的活動を通して社会人として必要な資質・能力を高めることができる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力を身に付けることができる。</li> <li>・イベント運営者の1人として責任を果たす行動をとることができる。</li> <li>・多くの人と1つのものを創り上げることができる。</li> </ul>				
評価基準	規定時間到達（50％）、事前事後課題及び報告書の提出（50％）				
認定条件	出席が規定時間数に達している者				
関連資格	日本財団ボランティアセンター認定 スポーツボランティア研修				
関連科目	サービスラーニング演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松田 今日花		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	スポーツボランティア研修事前学習	スポーツボランティアの目的・ねらいの理解 スポーツボランティア参加の必要性
2	スポーツボランティア研修	原則、履修者は参加
3	スポーツボランティア研修事後学習	スポーツボランティア研修で学んだことのアウトプット（感想文800文字以上）
4	事前学習	参加するボランティアの概要、当日の流れをの把握（ボランティアの概要と目標シートの提出）
5	ボランティア	実際にボランティアへ参加する（大会引率・運営協力など）
6	事後学習	実施報告書と活動証明書を作成し提出 活動報告会の実施（グループディスカッションなどを通して発表）
7	※計15単位間を満たすこと	

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅰ		
開講					
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	単位数	45
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会について学ぶ。				
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる				
評価基準	実習評価：50% 学校評価：50%（実習手帳評価）				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる				
担当教員	松田 今日花		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	1日の実習時間の最大は8時間（休憩時間を含めず）とし、原則22時まで

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	グループエクササイズ実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	グループエクササイズ実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	健実養成テキスト		出版社	健康・体づくり事業財団	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	グループエクササイズの基礎知識を修得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループエクササイズの楽しさを理解する。</li> <li>・レッスン受講を通してエアロビクスの基本動作スキルを向上させる。</li> <li>・フィットネス業界の商品の理解度・関心を高める。</li> </ul>				
評価基準	試験/レポート：60% 提出物：20% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	グループエクササイズ指導実践Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	レッスン受講①	オリエンテーション・ エアロビクスレッスン受講 (2ブロック)
2		前週の内容で再受講
3	レッスン受講①	1ブロック追加して計3ブロックで展開
4		前週の内容で再受講
5	動作確認テスト	レイヤリングをかけて完成形で受講

各回の展開		
回数	単元	内容
6	レッスン受講②	エアロビクスレッスン受講 (2ブロック) ②
7		前週の内容で再受講②
8		1ブロック追加して計3ブロックで展開②
9		前週の内容で再受講②
10	動作確認テスト	レイヤリングをかけて完成形で受講②
11	レッスン受講③	レッスン受講 (2ブロック程度) ③
12		前週の内容で再受講③
13		1ブロック追加して計3ブロック程度で展開③
14		前週の内容で再受講③
15	動作確認テスト	レイヤリングをかけて完成形で受講③

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	グループエクササイズ指導実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	グループエクササイズ指導実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	様々なレッスンのプログラミングやリードについて理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループエクササイズの初心者向けレッスンを指導することができる。</li> <li>・グループレッスンを指導するにあたり、基本的なキューイングや構成方法理解する。</li> </ul>				
評価基準	実技試験80%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	グループエクササイズ実践Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	静的・動的エクササイズ体験	レッスン体験
2	動的エクササイズ指導	ボクササイズプログラム/ダンスプログラム/有酸素系を講師が選択し指導練習 内容の説明と該当レッスン体験
3	動作確認	基本動作の説明
4	作成演習①	ウォーミングアップ作成
5	作成演習②	メインパート作成
6	作成演習③	メインパート作成
7	発表	発表会
8	静的エクササイズ指導	ヨガ・ストレッチを講師が選択し指導練習 内容の説明と該当レッスン体験

各回の展開		
回数	単元	内容
9	作成演習①	パートごとの練習
10	作成演習②	
11	作成演習③	
12	発表	発表会
13	最終試験①	①もしくは②を生徒が選択して実践形式でテスト実施
14	最終試験②	①もしくは②を生徒が選択して実践形式でテスト実施
15	まとめ	まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	チャイルドスポーツ実践		
必修選択	選択	(学則表記)	チャイルドスポーツ実践		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	こども達の見本となる運動実技（マット運動、跳び箱、鉄棒等）を体験し、技術を習得する。				
到達目標	こども達の見本となる運動実技を習得する。				
評価基準	演習：30% 提出物：30% 実技：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	こども運動指導者検定2級（幼児） こども運動指導者検定1級（児童）				
関連科目	発育発達論・キッズレクリエーション指導実践Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鈴木 直美	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブNASにて7年間インストラクター、その後フリーインストラクターとして活動している経験を基に、こども達の見本となる運動実技の技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、現代の幼児期の運動のあり方と課題を知る
2	移動運動から体を操作する能力を育てる	足の裏・手のひらから体を操作する能力を育てることを知り「寝返り＝転がる」から始まる移動運動の重要性を理解する
3	実技編 マット運動	マット運動の基本の動き『前転・開脚前転・後転・開脚後転』を実践できる
4	実技編 跳び箱運動	跳び箱の基本『開脚跳び』の動きを実践できる
5	実技完成・テスト マット運動・跳び箱編	子ども達の見本となるよう綺麗な動きを習得し、実技テストを実施する
6	実技編 縄跳び	縄跳び運動の跳び方の種類を知り、様々な跳び方を習得する（各自縄跳びを持参）
7	実技編 鉄棒	鉄棒運動の基本『足抜きまわり・尻上がり』『前回りおり』『逆上がり』の動きを実践できる
8	実技完成・テスト 縄跳び・鉄棒編	子ども達の見本となるよう綺麗な動きを習得し、実技テストを実施する
9	実技編 フラフープを使用した運動	回したり、飛んだり等、他にも実際の現場で使っているフラフープを使用した運動を知る、実践する

10	実技編 ボール運動①	大・中ボールを操作する
11	実技編 ボール運動②	小ボールを操作する・二人組のボール運動
12	実技編 ボール運動③	ゲームの運営
13	サーキット遊び	サーキット遊び実施
14	集団行動練習・集団行動実践・リズム体操	集団行動・リズム体操の理解を深める
15	前期まとめ	前期授業の振り返りをし知識・技能を定着させる

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	チャイルドスポーツ指導実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	チャイルドスポーツ指導実践Ⅰ		
		開講		単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	からだを操作する能力を育む		出版社	萌文書林	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期に適切な運動能力の基盤づくりができる方法を述べることができる。</li> <li>・乳幼児の発達特性に合わせた運動プログラムの立案をすることができる。</li> <li>・子ども達の見本となる運動実技・指導方法を習得することができる。</li> </ul>				
評価基準	演習：40% 提出物：40% 実技：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	こども運動指導者検定2級（幼児） こども運動指導者検定1級（児童）				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鈴木 直美	実務経験	○		
実務内容	スポーツクラブNASにて7年間インストラクター、その後フリーインストラクターとして活動している経験を基に、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、現代の幼児期の運動のあり方と課題を知る
2	運動・感覚機能を育てるレクリエーション	運動・感覚機能を育てるレクリエーション
3	0歳から一生涯まで楽しむレクリエーション	0歳から一生涯まで楽しむレクリエーション
4	指導編 マット運動	前転・後転の基本的な指導法と補助法を身に着け指導する
5	指導編 跳び箱運動	跳び箱運動の段階指導を学びながら補助法を身に着け指導する
6	指導テスト マット運動・跳び箱運動	それぞれの運動の指導方法のテストを実施する
7	指導編 縄跳び運動	様々な跳び方を指導法を学ぶ（各自縄跳びを持参）
8	指導編 鉄棒指導	鉄棒の段階指導と補助法を理解し、実践する

9	指導テスト 縄跳び運動・鉄棒	それぞれの運動の指導方法のテストを実施する
10	指導編 ボール運動	ボールを使ったゲームを楽しめるようになるため、「サッカー」「ドッチボール」等の指導方法を学ぶ
11	New Sports①（考案）	「誰でも、いつからでも、楽しく」をテーマにNew Sportsを考案する
12	New Sports②（共有）	考案したNew Sportsを共有する
13	考案編 テーマを決めて系統的指導	スポーツの基本の動きを理解して様々な環境・空間づくりをして運動能力を高める方法を学ぶ
14	実践編 テーマを決めて系統的指導	考案した系統的指導を共有する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	サッカー実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	サッカー実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	45
使用教材	JFA キッズ指導キッズ指導ガイドライン JFA U-12 指導指針		出版社	公益財団法人 日本サッカー協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	サッカーの基礎技術を習得する。 サッカー指導のポイントを確認する。				
到達目標	サッカーの基礎的な知識、技術が習得できている。				
評価基準	実技試験：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JFA公認C級コーチ、JFA公認D級コーチ、JFA公認キッズリーダー				
関連科目	サッカー実践Ⅱ				
備考	JFA公認キッズリーダー養成内容				
担当教員	安岡 博文	実務経験		○	
実務内容	NPO法人 アリアンテ東京-東久留米FC U-15、東京トレセン (U-13~15) 指導した経歴を基に、サッカーのコーチングスキルやテクニックを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	本授業の目的・意義・今後の流れ、ミニゲーム
2	ボール遊びの指導法	U-6 U-8 U-10 それぞれの指導法の違い、ゲーム
3	動きづくり	U-6 U-8 U-10 各カテゴリーでの動きづくり
4	鬼ごっこ	U-6 U-8 U-10 各カテゴリーでの鬼ごっこ
5	指導案作成	各カテゴリーでの鬼ごっこと動きづくりの指導案を作成
6	指導案実践	各カテゴリーでの鬼ごっこと動きづくりの指導案を実践
7	指導実践の振り返り	前の週に実践した指導の振り返り
8	ボールフィーリング	U-6 U-8 U-10 各カテゴリーでのボールフィーリング
9	キック	U-6 U-8 U-10 各カテゴリーでのキック

10	指導案作成	各カテゴリーでのボールフィーリングとキックの指導案を作成
11	指導案実践	各カテゴリーでのボールフィーリングとキックの指導案を実践
12	指導実践の振り返り	前の週に実践した指導の振り返り
13	ゲーム	U-6 U-8 U-10 各カテゴリーでのゲーム
14	テーマを設定しての指導	テーマを設定した指導案を作成
15	指導実践	テスト：テーマに沿った指導の実践

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	サッカー実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	サッカー実践Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	45
使用教材	JFA キッズ指導キッズ指導ガイドライン JFA U-12 指導指針		出版社	公益財団法人 日本サッカー協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	サッカーの基礎技術を習得する。 サッカー指導のポイントを確認する。				
到達目標	サッカーの基礎的な知識、技術が習得できている。				
評価基準	実技試験：60% 授業態度：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JFA公認C級コーチ、JFA公認D級コーチ、JFA公認キッズリーダー				
関連科目	サッカー実践Ⅰ				
備考	JFA公認D級コーチ養成内容				
担当教員	安岡 博文	実務経験		○	
実務内容	NPO法人 アリアンテ東京-東久留米FC U-15、東京トレセン (U-13~15) 指導した経歴を基に、サッカーのコーチングスキルやテクニックを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	本授業の目的・意義・今後の流れ、ミニゲーム
2	Game	ウォーミングアップ・ダブルフィールド4vs4
3	ウォーミングアップ	アイスブレイク
4	スキルトレーニング	ボールフィーリング、ボールコントロール、リフティング
5	パス&コントロール	パス&コントロール (対面・四面)
6	Game	ウォーミングアップ・4vs4+GK
7	フェイント	ドリブル (キックフェイント・マッシュ・ダブルタッチ・シザース・ストップ&ゴー)
8	ターン	ターン (インサイドターン・アウトサイドターン・クライフターン・ストップターン・ドロバック)

9	Game	ウォーミングアップ・4vs4+GK
10	スキルトレーニング	キック（インサイド・インステップ・インフロントアウトサイド・ヒールキック・ボレーキック・ヘディング）
11	シュート	シュートテクニック、シュートドリル
12	ボディコンタクト・タックル	スライディング、ショルダータックル、空中戦
13	ディフェンス	1vs1（ディフェンス）個人戦術
14	GKの基本技術	実技試験 ウォーミングアップ・4vs4+GK
15	Game	基本姿勢、キャッチング、ステッピング、スローイング、キック

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ダンスゼミ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダンスゼミ		
開講					
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	単位数	1
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	ダンスを仕事にする上での基礎知識を、実技や座学を交えて習得する。 授業の後半では、振付をメインとしたダンスレッスンをを行い、振付を通してダンスの楽しさを学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスを仕事にする上で必要とされる知識やスキルを学ぶことで、ダンサーとして、人としての深みを出せるようにする。</li> <li>・ダンサーには様々な役割があることを理解し、自分が将来どんな仕事に就きたいのかを考える。</li> <li>・振付クラスを実施する中で、自分に足りないダンススキルを理解する。</li> </ul>				
評価基準	授業態度：70% レポート：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	酒井 みゆき	実務経験			
実務内容	幼稚園教諭3年・ダンサー歴20年・インストラクター+コレオグラファー15年・学童保育の経験を基に、ダンスを仕事にする上での基礎知識や楽しさを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ダンスレッスン1	現在のダンス市場について 目標設定（ワークシート記入）
2	HipHopの歴史 ダンスレッスン2	HIPHOPの歴史
3	ストリートダンスの歴史 ダンスレッスン3	ダンスの歴史 実技を交えながらHIPHOPの歴史を辿る
4	バックダンサー深掘り ダンスレッスン4	バックダンサーの深掘り ダンスボーカルの歴史
5	プロダンサー深掘り ダンスレッスン5	プロダンサーの深掘り プロリーグ解説
6	振付師深掘り ダンスレッスン6	振付師の深掘り 構成表の書き方
7	インストラクター深掘り ダンスレッスン7	ダンスインストラクターとは 実技を交えながらダンスインストラクターの仕事について学ぶ。
8	ダンス業界の裏方深掘り ダンスレッスン8	ダンス裏方の深掘り ライブ・舞台演出制作、オーガナイザー等

9	ステージ用語 ダンスレッスン9	ステージで使われる専門用語を学ぶ。 ワーク形式で実際にステージを作り、ステージで使われる専門用語を学ぶ。
10	照明について ダンスレッスン10	照明について ワークを交えながら照明の基礎について学ぶ。
11	衣装について ダンスレッスン11	衣装について ワークを交えながら衣装がダンスに与える影響やスタイルに合った衣装選びの基準についての具体例を学ぶ。
12	人として ダンスレッスン12	踊りを仕事にする上で必要な知識を学ぶ。 後半はワークを交えながら自分がどんな将来像を描いていきたいかを考える。
13	実技1 ダンスレッスン13	ダンス作品書き起こし（構成表や照明など）
14	実技2 ダンスレッスン14	ダンス作品書き起こし（構成表や照明など）
15	目標設定振り返り ダンスレッスン15	目標設定振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ダンス実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダンス実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	45
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	リズムやステップの習得を通してダンスの表現力を磨く。 音楽に対する感覚を養い、自身の動きに自信を持てるようにすることを目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス(HipHop)の基礎となるリズムやステップを学び習得する。</li> <li>・毎授業で新しいステップを習得し、振り付けに活かせるようにする。</li> </ul>				
評価基準	授業態度：80% 試験：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と目標を説明し、学生に学習内容を理解させます。 授業の進め方、評価基準、到達目標について共有し、基礎の重要性を強調。
2	リズムトレーニング基礎(ダウン)	ダウンのリズムを安定させるための基礎トレーニング。 リズムに合わせて体を上下させることで、ビートを体感する練習。ダウンのリズムを体に定着させます。
3	リズムトレーニング基礎(アップ)	アップのリズムを安定させるための基礎トレーニング。 リズムに合わせて体を上下させることで、ビートを体感する練習。アップのリズムを体に定着させます。
4	リズムトレーニング応用	アップとダウンのリズムを正確に使い分けられるようにする。 8ビートの他に、16ビートやその他様々なリズムキープを学ぶ。
5	アイソレーション	首、肩、胸、腰などの各部位を個別に動かす技術を学ぶ。 ボディパーツを分けて動かす練習で、個々の動きを分離しながらコントロール力を高める。
6	リズムトレーニング総復習	リズムトレーニングの基礎を復習し、理解を深める。 これまでのリズム練習を総括し、安定したリズム感を育成するための繰り返し練習。
7	パドブレ・キックステップ	ステップの基礎動作であるパドブレとキックステップを習得。 足の切り替えとタイミングを意識し、体重移動の感覚を養う。リズムに合わせた足の動きでステップを安定させる。

8	クラブ (ダウン・アップ)	クラブの動作をダウンとアップで変化させ、リズムに乗せて動かす。 ダウンとアップのリズムを組み合わせ、クラブのステップにバリエーションを加えた練習を行います。
9	スネーク	ラコステの基礎を学び、体幹を使ったステップの習得。 体の軸を保ちながら、腕と足の連動を練習。リズムに合わせた正確な動作を強化します。
10	フリーク	フリークステップでリズムを感じながら体を動かす練習。 上半身と下半身の動きの連動を意識しながら、独特なリズム感で体を動かす。
11	ランニングマン	ランニングマンのステップを学び、軽やかにリズムに乗る。 リズムに合わせて足をスムーズに切り替え、体重移動を意識しながら動きを安定させる。
12	ポップコーン	ポップコーンのステップを習得し、ビートに合わせたリズム感を身につける。 体の上下運動に合わせたステップで、ポップコーンのリズム感を養成する。
13	ペンギン	ペンギンの動作を使い、柔らかなリズムで動く感覚を身につける。 リズムに合わせて左右に揺れる動きを練習し、動きの柔らかさを意識。
14	ブルックリン	ロボコップの動作で、リズムに乗りながら独特なステップを習得。 体の上下運動をリズムに合わせて強調し、ロボコップの動きに特徴的な重みを感じる練習。
15	総復習	これまで習得したすべての動作を復習し、体に定着させる。 すべてのステップを入れた振り付けをテスト。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	ダンス指導実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダンス指導実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	45
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	ダンス指導の基礎知識を身につける。ダンス指導者としての振付制作の実践。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス指導において必要とされるスキルを学び、指導体験をすることで実践的に指導方法を習得する。</li> <li>・履修者はダンス指導者として求められるスキルを理解するとともに、模擬レッスンを通して具体的にダ</li> </ul>				
評価基準	授業態度：60% レポート：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ダンス指導者とは
2	ウォーミングアップとクールダウン	ウォーミングアップとクールダウンの必要性を学ぶ。 レッスンに取り入れる効果的な方法を理解し、効果を調べる。
3	プロデュースとは	指導者としてプロデュースとは何か考える。
4	技術習得 実技①テクニックの指導	実際にダンスレッスンを受講者として体験し、基礎的なテクニックの指導方法を学ぶ。
5	技術習得 実技②振付の指導	実際にダンスレッスンを受講者として体験し、振付の指導方法を学ぶ。
6	技術習得 実技③構成の指導	実際にダンスレッスンを受講者として体験し、構成の指導方法を学ぶ。☑

7	技術習得 実技④ダンスレッスンの指導	実際にダンスレッスンを受講者として体験し、約90分間の実技①②の応用レッスンの受講。
8	特別授業	現役振付師/指導者による指導方法を学ぶ。
9	制作① 振付制作	2つ以上のムーブやステップを組み合わせた2エイトの振付制作
10	制作② 振付制作	2つ以上のムーブやステップを組み合わせた2エイトの振付制作
11	制作③ 振付制作	①②を繋げたコンビネーションの制作、2人構成の作成。
12	実践① 模擬ダンスレッスン	1人を指導者とし、模擬レッスンを行う。 指導内容について、指導者と受講者でディスカッションを行う。
13	実践② 模擬ダンスレッスン	1人を指導者とし、模擬レッスンを行う。 指導内容について、指導者と受講者でディスカッションを行う。
14	実践③ 模擬ダンスレッスン	1人を指導者とし、模擬レッスンを行う。 指導内容について、指導者と受講者でディスカッションを行う。
15	実践④ 発表と総括	各指導者が制作をした4エイトの作品を発表。 振付制作→指導を経験し、必要なスキルや指導者としての理解を総合的に深める。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレンドダンスⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドダンスⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ&アクティビティ科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。				
到達目標	2ジャンルのダンスを学び、基本の動きができるようになる。				
評価基準	試験：50% 授業態度：40% レポート：10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	「LOCK」と「HOUSE」についてのリサーチ、レポート提出
2	LOCK基礎①	LOCKの基本ムーブを学ぶ(各授業2ムーブ・このムーブを使ったルーティーン)
3	LOCK基礎②	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
4	LOCK基礎③	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
5	LOCK基礎④	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
6	LOCK基礎⑤	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン

7	LOCK基礎⑥	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
8	LOCK 振付(テスト)	LOCKの振付を覚えて、少人数で踊って発表
9	HOUSE基礎①	HOUSEの基本ムーブを学ぶ
10	HOUSE基礎②	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
11	HOUSE基礎③	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
12	HOUSE基礎④	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
13	HOUSE基礎⑤	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
14	HOUSE基礎⑥	前回のおさらい+2ムーブとそれを使ったルーティーン
15	HOUSE振付(テスト)	HOUSEの振付を覚えて、少人数で踊って発表

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング用具の知識		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング用具の知識		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア・ナレッジワークブック		出版社	PADI	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	お客様に合った適切な器材を説明・紹介出来る知識を修得する。				
到達目標	ダイブマスター5教科のうち器材の合格をすることができる。				
評価基準	筆記試験50%、プレゼンテーション試験30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	器材セッティング(OW)	器材セッティングの方法
3	マスク・スノーケル・フィン	マスク、スノーケル、フィンの種類、特徴
4	スーツ類・アクセサリー類	ウェットスーツの種類、保温性
5	BCDジャケット	BCDの種類、特徴、操作方法
6	シリンダー (タンク)	シリンダーの種類、特徴、刻印の意味
7	レギュレーター①	ファーストステージの特徴、違い
8	レギュレーター②	セカンドステージの特徴、違い

## 各回の展開

回数	単元	内容
9	オクトパス・計器類	オクトパス、計器類の特徴、種類
10	ダイブコンピューター	ダイブコンピューターの種類、特徴
11	器材類について	メンテナンス方法
12	器材類について	運搬方法、保管方法
13	スーツの量・配置の違い	種類によっての浮力の違い
14	シリンダーの量・配置の違い	種類によっての浮力の違い
15	お客様に合った器材の説明	男性、女性、体型、使用者に合わせた器材説明

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング物理・生理		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング物理・生理		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア		出版社	PADI	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	スクーバを使って水の中に潜ると人体がどのように機能するか理解する。 水中環境がもたらす変化に人体がどのように反応するかを理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>水中環境がダイバーにもたらす影響と人体の変化・反応について説明することができる。</li> <li>ダイブマスター5教科のうち物理・生理の合格をすることができる。</li> </ul>				
評価基準	筆記試験50%、プレゼンテーションテスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等によって授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標・資格取得
2	水に関する基礎知識	ダイバーに与える影響
3	気体の基礎知識	アルキメデスの原理、必要な浮力、淡水と海水の計算
4	ボイルの法則・シャルルの法則	空気の体積、消費量の変化
5	ダルトンの法則・ヘンリーの法則	減圧モデルの応用性、減圧不要限界、減圧スケジュール
6	浮力・圧力について	プラス浮力、マイナス浮力、中性浮力
7	循環器系のトラブル	循環器系のトラブル、対策、対処法
8	呼吸器系のトラブル	呼吸器系のトラブル、対策、対処法

各回の展開		
回数	単元	内容
9	温度変化への生理的反応	熱疲労、熱射病、低体温症、体温低下
10	耳とサイナス	耳とサイナスへのスクイズ、圧平衡の方法
11	体内空間のトラブル	浮上中の圧外傷、潜降中の圧外傷
12	肺の過膨張障害	肺過膨張障害の予防と対策、処置の方法
13	減圧症	減圧症の予防と対策、処置の方法
14	水中でおこりうる障害について	纏める：水中でおこりうる様々な障害
15	水中でおこりうる障害について	発表：水中でおこりうる様々な障害

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	潜水士		
必修選択	選択	(学則表記)	潜水士		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	潜水士テキスト 潜水士試験問題集－模範解答と解説〈120題〉－		出版社	中央労働災害防止協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	潜水士国家試験にむけて合格に必要な知識を修得する。				
到達目標	潜水士国家試験に合格をすることができる。				
評価基準	筆記試験50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	潜水士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	潜水業務の概要	潜水業務の定義・歴史・潜水作業の概要・圧力・気体の法則
2	潜水の物理学	気体の特性・浮力・潜水に関する気体の性質 水中での光の伝播・音の伝播・熱の伝播
3	潜水の種類スクーバ式潜水	潜水器の種類による分類・呼吸用ガスによる分類・潜水業務の管理・必要な設備・器具取り扱い・点検整備
4	全面マスク式潜水ヘルメット式潜水	必要な設備・器具・器具の取り扱い・器具の点検整備
5	混合ガス潜水方式飽和潜水	潜水の方法・必要な設備・機材・混合ガス・酸素減圧・等圧気泡形成・飽和潜水の方法・特徴
6	潜水業務の計画と管理	潜水業務の危険性・潜水業務を行う水域による危険性
7	潜水業務の危険性	代表的な潜水事故とその予防法・緊急の連絡体制の確立
8	潜水業務に必要な給気	空気潜水における給気および送気・混合ガス潜水における給気および送気・潜降・浮上

各回の展開

回数	単元	内容
9	適正な浮上（減圧）速度の制定	減圧計算を理解する・高所潜水・再圧室を用いて酸素減圧をする場合
10	個別の潜水状況への対応	緊急時の場合・減圧表を使用する場合の留意事項・減圧表の限界
11	人のからだ	循環・呼吸器・神経系・医学面よりみた潜水の特徴・圧力が関係する疾患・呼吸に関する疾患温度の影響
12	潜水者の健康管理	健康診断・病者の就業禁止・個人の健康管理
13	潜水業務に必要な救急処置	一次救命処置・再圧治療
14	関係法令	法令の構成・高気圧作業に関連する労働安全衛生法の構成・法令条文の読み方・本文中の略語労働安全衛生法
15	関係法令	労働安全衛生規則・高気圧作業安全衛生規則・罰則

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング理論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	OWDマニュアル、AOWマニュアル、EFRマニュアル REDマニュアル		出版社	PADI	

## 基礎情報②の補足

授業のねらい	OWD、AOW、レスキューダイバーの必要な知識を修得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース修了に必要なナレッジレビューの解答、解説することができる。</li> <li>・ファイナルエグザム終了することができる。</li> </ul>				
評価基準	筆記試験 50%、課題提出 30%、授業態度 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	ダイビング理論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標・資格取得の流れ
2	OWDナレッジレビュー1章・2章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
3	OWDナレッジレビュー3章・4章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
4	OWDナレッジレビュー5章・RDPテーブル	ナレッジレビューの解答、解説、復習
5	OWD ファイナルエグザム	ファイナルエグザムの解答、解説、復習
6	AOW ナレッジレビュー	PPBナレッジレビューの解答、解説、復習
7	AOW ナレッジレビュー	BDS、FIDナレッジレビューの解答、解説、復習
8	AOW ナレッジレビュー	UNS、SRSナレッジレビューの解答、解説、復習

各回の展開		
回数	単元	内容
9	AOW ナレッジレビュー	NDS、DDSナレッジレビューの解答、解説、復習
10	EFR 1次ケアと2次ケア	ABC-ABSと救急処置の実施方法の解説
11	EFR ナレッジレビュー	ナレッジレビューの解答、解説、復習
12	REDナレッジレビュー1章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
13	REDナレッジレビュー2章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
14	REDナレッジレビュー3章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
15	REDナレッジレビュー4章	ナレッジレビューの解答、解説、復習

# シラバス

## 科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	ダイビング理論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア、ナレッジワークブック		出版社	PADI	

## 科目の基礎情報2

授業のねらい	AOW、RED、ダイブマスターに向けてダイビング理論知識を修得する。				
到達目標	ダイブマスター5科目のうちRDPとスキルと環境の合格をすることができる。				
評価基準	筆記試験50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	ダイビング理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標・資格取得の流れ
2	REDナレッジレビュー5章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
3	REDファイナルエグザム	ファイナルエグザムの解答、解説、復習
4	スキルと環境	主な海流の循環の性質
5	スキルと環境	水中環境、ダイバーのできること
6	ダイブマスターの役割と資質	プロフェッショナリズム、ダイブマスターの責任
7	認定ダイバーのダイビング活動の監督 1・2	ダイブプランニング ダイバーの行動
8	認定ダイバーのダイビング活動の監督 3・4	コンディションの評価 ダイビング時、責任ある行動

各回の展開		
回数	単元	内容
9	認定ダイバーのダイビング活動の監督 5・6	ダイビングのストレス 適切な監督位置
10	認定ダイバーのダイビング活動の監督7	緊急時の対応
11	認定ダイバーのダイビング活動の監督8	ブリーフィング内容
12	認定ダイバーのダイビング活動の監督9	トラブル管理
13	トレーニング中の生徒ダイバーのアシスト 1・2	アシスタントの役割 コントロール・監督・運営
14	トレーニング中の生徒ダイバーのアシスト 3・4・5	スキルのデモンストレーション トラブル解決・トラブル中の生徒ダイバーのアシスト
15	ファイナルエグザム	筆記テストの回答・解説・復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	スクーバダイビング実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	スクーバダイビング実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	4	120
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。</p> <p>授業で得たものを活かしつつ「対人基礎力」「對自己基礎力」「対課題基礎力」「専門知識・技術」の4項目の力を伸ばしていけるよう活動に取り組む。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる。</li> <li>・課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる。</li> <li>・組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる。</li> </ul>				
評価基準	実習評価：50% ・学校評価：50%（実習手帳評価）				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	C/W ①②③	C/W ①②③
2	C/W ④⑤+水中能力評価	C/W ④⑤+水中能力評価
3	O/W ①②	O/W ①②
4	O/W ③④	O/W ③④
5	ビーチクリーンアップ	ビーチのクリーンアップの重要性
6	Fun Dive	O/Wのオプションダイビング
7	PPB ①・ナビゲーション①	AOWの項目

各回の展開		
回数	単元	内容
8	ボート①・魚の見分け方①	AOWの項目
9	ディープ①・ナイト①	AOWの項目
10	EFR①②	EFRの実技
11	RED C/W①②③④⑤⑥	RED C/W①②③④⑤⑥ 各ケースに合わせたレスキュー
12	RED C/W⑦⑧⑨⑩	RED C/W⑦⑧⑨⑩ 各ケースに合わせたレスキュー
13	サーチ&リカバリー①②③④	各種ロープワーク、引き揚げ方
14	酸素プロバイダー	酸素プロバイダーコース
15	レスキュー海洋シナリオ	海洋シナリオ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	バスケットボール理論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	バスケットボール理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	ERUTLUC提供の資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	バスケットボールの基本的な技術・指導法・成長のための考え方などの知識を身につける。				
到達目標	バスケットボールの基本的な技術のポイントを理解し、説明することができる。 指導に必要となるさまざまな知識や理論を理解し、説明することができる。 成長につながる物の考え方を知り、説明することができる。				
評価基準	テスト：60%、授業態度：20%、小テスト・提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	特になし				
関連科目	バスケットボール実践Ⅰ、バスケットボール理論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	釜石祐也 他1名	実務経験	○		
実務内容	株式会社ERUTLUCにてバスケットボール指導に携わっている経験を基に、バスケットボールの基本的な技術・指導法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	SKILL：ファンダメンタル①	ファンダメンタルについて
2	SKILL：ドリブルの基本①	ドリブルの基本について
3	SKILL：ファンダメンタル②	ファンダメンタルについて
4	SKILL：ドリブルの基本②	ドリブルの基本について
5	SKILL：ファンダメンタル③	ファンダメンタルについて
6	SKILL：ドリブルの実戦①	相手がいる状態での実戦的なドリブルについて
7	MENTALITY /MINDSET：成功哲学	指導者として成功するために必要な考え方
8	SKILL：ドリブルの実戦②	相手がいる状態での実戦的なドリブルについて

各回の展開		
回数	単元	内容
9	SKILL：シュートの基本①	シュート指導の考え方と基本的な理論
10	COACHING：指導理念	指導者としての指導理念の確立と言語化
11	SKILL：シュートの基本②	シュート指導の考え方と基本的な理論
12	COACHING：技術指導を子どもに行うときのポイント	指導現場に活かせる子どもの発育発達に関する知識と様々なアプローチ方法
13	SKILL：シュートの基本③	シュート指導の考え方と基本的な理論
14	COACHING：説明と言葉遣い・話し方を工夫する	限られた時間の中で選手がより成長するための効果的な導入方法と説明方法
15	SKILL：シュートの実戦①	試合中の状況でシュートを確率良く決めるための技術や能力について
16	SKILL：パスの基本①	パスおよびパス練習の基本的な理論
17	SKILL：シュートの実戦②	試合中の状況でシュートを確率良く決めるための技術や能力について
18	SKILL：パスの基本②	パスおよびパス練習の基本的な理論
19	MENTALITY /MINDSET：パラダイム	パラダイムについて
20	SKILL：パスの実戦①	状況やディフェンスに応じた様々なパスとより良いパス練習について
21	SKILL：エリア3①	エリア3におけるスキルについて
22	SKILL：パスの実戦②	状況やディフェンスに応じた様々なパスとより良いパス練習について
23	SKILL：エリア3②	エリア3におけるスキルについて
24	SKILL：パスの実戦③	状況やディフェンスに応じた様々なパスとより良いパス練習について
25	SKILL：エリア3③	エリア3におけるスキルについて
26	COACHING：示範技術・技術の分析と矯正法	示範技術の効果的な方法および技術の分析と矯正法について
27	MENTALITY /MINDSET：原則・主体的である	原則と主体性について
28	COACHING：練習を組み立てる	生産性の観点から考える練習メニューの組み立てについて
29	テスト	テストの実施
30	総まとめ	テストの内容の振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	バスケットボール理論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	バスケットボール理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	30
使用教材	ERUTLUC提供の資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	バスケットボールの基本的な技術・指導法・成長のための考え方などの知識を身につける。				
到達目標	バスケットボールの基本的な技術のポイントを理解し、説明することができる。 指導に必要となるさまざまな知識や理論を理解し、説明することができる。 成長につながる物の考え方を知り、説明することができる。				
評価基準	テスト：60%、小テスト：20%、授業態度、提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	特になし				
関連科目	バスケットボール実践Ⅱ、バスケットボール理論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	釜石祐也 他1名	実務経験	○		
実務内容	株式会社ERUTLUCにてバスケットボール指導に携わっている経験を基に、バスケットボールの基本的な技術・指導法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	SKILL：エリア2①	エリア2におけるスキルについて
2	SKILL：エリア1①	エリア1におけるスキルについて
3	SKILL：エリア2②	エリア2におけるスキルについて
4	SKILL：エリア1②	エリア1におけるスキルについて
5	MENTALITY/MINDSET：終わりを思い描く、最優先事項を優先する	目的を持つことの重要性や優先順位の付け方について
6	COACHING：応急処置、救急救命法	応急処置と救急救命法
7	SKILL：インサイド1on1①	インサイドに必要なスキルについて
8	SKILL：ボールマンディフェンス①	ボールマンを妨害するために必要な考え方とスキル

各回の展開		
回数	単元	内容
9	SKILL：インサイド1on1②	インサイドに必要なスキルについて
10	SKILL：ボールマンディフェンス②	ボールマンを妨害するために必要な考え方とスキルについて
11	MENTALITY／MINDSET：WIN-WINを考える、理解してから理解される	人間関係における考え方について
12	SKILL：ボールマンディフェンス③	ボールマンを妨害するために必要な考え方とスキルについて
13	SKILL：シュートを極める①	シュート指導を発展させるために適切なコーチングの考え方
14	SKILL：オフボールディフェンス①	オフボールディフェンスの外観とスキルについて
15	SKILL：シュートを極める②	シュート指導を発展させるために適切なコーチングの考え方
16	SKILL：オフボールディフェンス②	オフボールディフェンスの外観とスキルについて
17	SKILL：シュートを極める③	シュート指導を発展させるために適切なコーチングの考え方
18	COACHING：アシスタントコーチの役割と心構え	チームや練習の成果を上げるためのアシスタントコーチの役割と心構え
19	MENTALITY／MINDSET：相乗効果を発揮する・刃を研ぐ	より良い人生を送るための個人の力と他者との生産性を上げる考え方
20	COACHING：子ども達のやる気を引き出す・競争闘争	選手の行動を変えるきっかけとなるやる気について
21	SKILL：身体能力・運動能力を高める①	パフォーマンスを上げるために必要な理論と方法
22	COACHING：スポーツ空間論	スポーツ空間で選手たちを夢中にさせるための考え方
23	SKILL：身体能力・運動能力を高める②	パフォーマンスを上げるために必要な理論と方法
24	COACHING：子どもの指導を深める①	現場における子どもの指導に活かせる理論や工夫
25	SKILL：身体能力・運動能力を高める③	パフォーマンスを上げるために必要な理論と方法
26	COACHING：子どもの指導を深める②	現場における子どもの指導に活かせる理論や工夫
27	SKILL：身体能力・運動能力を高める④	パフォーマンスを上げるために必要な理論と方法
28	COACHING：コーチとしての振る舞い	信頼と影響の観点で考えるコーチのあるべき姿について
29	テスト	テストの実施
30	総まとめ	テストの内容の振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	バスケットボール実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	バスケットボール実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	60
使用教材	ERUTLUC提供の資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	バスケットボールの基礎技術を習得する。 バスケットボール指導のポイントを確認する。				
到達目標	バスケットボールの基礎的な知識・技術を習得し、短い時間で技術のポイントを伝えるコーチングができる。				
評価基準	小テスト（実技）：60% 授業態度（実践含む）：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	バスケットボール理論Ⅰ、バスケットボール実戦Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	釜石祐也 他1名	実務経験	○		
実務内容	株式会社ERUTLUCにてバスケットボール指導に携わっている経験を基に、バスケットボールの基本的な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	ファンダメンタル①	バスケットボールの基礎技術や基礎動作の習得、コーチングについて
2	ドリブル①	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
3	ファンダメンタル②	バスケットボールの基礎技術や基礎動作の習得、コーチングについて
4	ドリブル②	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
5	ファンダメンタル③	バスケットボールの基礎技術や基礎動作の習得、コーチングについて
6	ドリブル③	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
7	ファンダメンタル④	バスケットボールの基礎技術や基礎動作の習得、コーチングについて

各回の展開		
回数	単元	内容
8	ドリブル④	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
9	シュート①	シュートの基本技術の習得、コーチングについて
10	ドリブル⑤	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
11	シュート②	シュートの基本技術の習得、コーチングについて
12	ドリブル⑥	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
13	シュート③	シュートの基本技術の習得、コーチングについて
14	ドリブル⑦	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
15	シュート④	シュートの基本技術の習得、コーチングについて
16	パス①	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
17	シュート⑤	シュートの基本技術の習得、コーチングについて
18	パス②	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
19	シュート⑥	シュートの基本技術の習得、コーチングについて
20	パス③	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
21	エリア3①	エリア3スキルの習得、コーチングについて
22	パス④	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
23	エリア3②	エリア3スキルの習得、コーチングについて
24	パス⑤	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
25	エリア3③	エリア3スキルの習得、コーチングについて
26	パス⑥	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
27	エリア3④	エリア3スキルの習得、コーチングについて
28	パス⑦	パスの基本技術や状況とディフェンスに応じた様々なパス技術の習得、コーチングについて
29	総まとめ①	設定テーマのメニュー案作成や指導の実践
30	総まとめ②	設定テーマのメニュー案作成や指導の実践

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	バスケットボール実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	バスケットボール実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	2	60
使用教材	ERUTLUC提供の資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	バスケットボールの基礎技術を習得する。 バスケットボール指導のポイントを確認する。				
到達目標	バスケットボールの基礎的な知識・技術を習得し、短い時間で技術のポイントを伝えるコーチングができる。				
評価基準	小テスト（実技）：60% 授業態度（実践含む）：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	バスケットボール理論Ⅱ、バスケットボール実戦Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ				
備考	バスケットボールの基礎技術や基礎動作を習得するとともに、コーチングを体験的に行うことで理解を深める。 原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	釜石祐也 他1名	実務経験	○		
実務内容	株式会社ERUTLUCにてバスケットボール指導に携わっている経験を基に、バスケットボールの基本的な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	SKILL：エリア2①	エリア2スキルの習得、コーチングについて
2	SKILL：エリア1①	エリア1スキルの習得、コーチングについて
3	SKILL：エリア2②	エリア2スキルの習得、コーチングについて
4	SKILL：エリア1②	エリア1スキルの習得、コーチングについて
5	SKILL：エリア2③	エリア2スキルの習得、コーチングについて
6	SKILL：エリア1③	エリア1スキルの習得、コーチングについて
7	SKILL：インサイド1on1①	インサイド1on1スキルの習得、コーチングについて

各回の展開		
回数	単元	内容
8	SKILL：エリア1④	エリア1スキルの習得、コーチングについて
9	SKILL：インサイド1on1②	インサイド1on1スキルの習得、コーチングについて
10	SKILL：ボールマンディフェンス①	ボールマンディフェンスの基本技術や基本動作の習得、コーチングについて
11	SKILL：インサイド1on1③	インサイド1on1スキルの習得、コーチングについて
12	SKILL：ボールマンディフェンス②	ボールマンディフェンスの基本技術や基本動作の習得、コーチングについて
13	SKILL：シュートを極める①	上質なシュート技術の習得、シュート能力を磨くコーチングについて
14	SKILL：ボールマンディフェンス③	ボールマンディフェンスの基本技術や基本動作の習得、コーチングについて
15	SKILL：シュートを極める②	上質なシュート技術の習得、シュート能力を磨くコーチングについて
16	SKILL：ボールマンディフェンス④	ボールマンディフェンスの基本技術や基本動作の習得、コーチングについて
17	SKILL：シュートを極める③	上質なシュート技術の習得、シュート能力を磨くコーチングについて
18	SKILL：オフボールディフェンス①	オフボールディフェンスの考え方や技術の習得、コーチングについて
19	SKILL：シュートを極める④	上質なシュート技術の習得、シュート能力を磨くコーチングについて
20	SKILL：オフボールディフェンス②	オフボールディフェンスの考え方や技術の習得、コーチングについて
21	SKILL：身体能力・運動能力を高める①	障害予防とパフォーマンス向上に貢献するための基礎的なトレーニング、ストレングス&コンディショニング、コーディネーショントレーニング、コーチングについて
22	SKILL：オフボールディフェンス③	オフボールディフェンスの考え方や技術の習得、コーチングについて
23	SKILL：身体能力・運動能力を高める②	障害予防とパフォーマンス向上に貢献するための基礎的なトレーニング、ストレングス&コンディショニング、コーディネーショントレーニング、コーチングについて
24	SKILL：オフボールディフェンス④	オフボールディフェンスの考え方や技術の習得、コーチングについて
25	SKILL：身体能力・運動能力を高める③	障害予防とパフォーマンス向上に貢献するための基礎的なトレーニング、ストレングス&コンディショニング、コーディネーショントレーニング、コーチングについて
26	SKILL：オフボールディフェンス⑤	オフボールディフェンスの考え方や技術の習得、コーチングについて
27	SKILL：身体能力・運動能力を高める④	障害予防とパフォーマンス向上に貢献するための基礎的なトレーニング、ストレングス&コンディショニング、コーディネーショントレーニング、コーチングについて
28	SKILL：オフボールディフェンス⑥	オフボールディフェンスの考え方や技術の習得、コーチングについて
29	テスト	設定テーマのメニュー案作成や指導の実践
30	総まとめ	設定テーマのメニュー案作成や指導の実践の振り返りまたは技術の再整理

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	バスケットボール実践Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	バスケットボール実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	バスケットボールの基礎技術を習得する。 バスケットボール指導のポイントを確認する。				
到達目標	バスケットボールの基礎的な知識・技術を習得し、短い時間で技術のポイントを伝えるコーチングができる。				
評価基準	小テスト（実技）：60% 授業態度（実践含む）：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	バスケットボール理論Ⅰ・Ⅱ、バスケットボール実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	庄司 顕人	実務経験	○		
実務内容	東京ユナイテッドバスケットボールクラブにてアカデミーディレクター兼U15ヘッドコーチの経験を基に、バスケットボールの基礎的な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	コーチング実践①	実戦的な技術の習得、コーチングについて
2	コーチング実践②	実戦的な技術の習得、コーチングについて
3	ドリブル①	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
4	ドリブル②	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
5	コーチング実践③	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
6	コーチング実践④	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて
7	振り返りと学びの学習	コーチング実践、技術のポイントおよび指導理論・指導法について
8	ファンダメンタルスキル①	ファンダメンタルの基礎・基本や実戦的な技術を習得、コーチングについて

各回の展開		
回数	単元	内容
9	ファンダメンタルスキル②	ファンダメンタルの基礎・基本や実戦的な技術を習得、コーチングについて
10	指導実践⑤	ファンダメンタルの基礎・基本や実戦的な技術を習得、コーチングについて
11	指導実践⑥	ファンダメンタルの基礎・基本や実戦的な技術を習得、コーチングについて
12	振り返りと学びの学習	コーチング実践・技術のポイント、指導理論・指導法について
13	攻防の原則①	バスケットボールの技術・動作の修得、コーチングについて
14	総まとめ①	設定テーマのメニュー案作成、指導の実践
15	総まとめ②	設定テーマのメニュー案作成、指導の実践

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	バスケットボール実践Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	バスケットボール実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	なし		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	前期で学んだ内容を理解して指導実践ができるようになる。 バスケットボール指導のポイントを確認する。				
到達目標	前期で培ったバスケットボールの基礎的な知識・技術を基に、短い時間で技術のポイントを伝えるコーチングができる。				
評価基準	小テスト（実技）：60% 授業態度（実践含む）：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	バスケットボール理論Ⅰ・Ⅱ、バスケットボール実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	庄司 顕人	実務経験	○		
実務内容	東京ユナイテッドバスケットボールクラブにてアカデミーディレクター兼U15ヘッドコーチの経験を基に、バスケットボールの基礎的な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	自己理解とコーチングについて
2	キャリアデザイン	自己理解とコーチングについて
3	フィニッシュスキル①	フィニッシュスキルの技術の習得、基本指導や能力を磨くコーチングの理解
4	フィニッシュスキル②	フィニッシュスキルの技術の習得、基本指導や能力を磨くコーチングの理解
5	コーチング実践①	フィニッシュスキル、コーチングとプレゼンテーション
6	コーチング実践②	フィニッシュスキル、コーチングとプレゼンテーション
7	練習計画に作成と理解①	練習計画作成、コーチング実践
8	練習計画に作成と理解②	ドリブルの基礎・基本や実戦的な技術の習得、コーチングについて

各回の展開		
回数	単元	内容
9	攻防の原則①	バスケットボールの技術・動作、コーチングについて
10	攻防の原則②	バスケットボールの技術・動作、コーチングについて
11	コーチング実践③	攻防の原則、コーチングとプレゼンテーション
12	コーチング実践④	攻防の原則、コーチングとプレゼンテーション
13	練習計画に作成と理解③	練習計画作成、コーチング実践
14	総まとめ①	設定テーマのメニュー案作成、指導の実践
15	総まとめ②	設定テーマのメニュー案作成、指導の実践

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	図表とイラストでわかる 子どもの食と栄養		出版社	中央法規出版	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	食生活の意義、栄養の基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本など、保育者に必要な基礎的内容を学ぶ。また、食物アレルギーや障害など特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解を深める。				
到達目標	①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ③養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ⑤関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの健康と食生活の意義	子どもの食と栄養の概要、授業の流れ、到達目標について説明する 第1章 (p. 2~18) ①乳幼児食事調査から見た食の現状と課題 (P.2) ②朝食欠食、偏食、孤食などへの対応 (p.6~10) ③栄養アセスメントの意義と種類 (p.16~18)
2	栄養に関する基礎知識①	第2章 (p.22~33) ①消化と吸収 (p.22) ②三大栄養素とエネルギー (p.25) ③たんぱく質 (p.33) ④炭水化物 (p.28) ⑤脂質 (p.30)
3	栄養・食に関する基礎知識②	第2章 (p.36~42) ⑥ビタミン (p.36) ⑦ミネラル (p.38) ⑧食物繊維 (p.41) ⑨水 (p.42)
4	食に関する基礎知識	第3章 (p.48~69) ①食事摂取基準 (p.48~61) ②献立作成と調理の基本 (p.62~65) ③食品表示に関する知識 (p.67~69)
5	子どもの発育・発達と食生活①	第4章 (p.74~78) ①乳児期の機能の発達と食事提供
6	子どもの発育・発達と食生活②	第4章 (p.79~80) ②乳児期の発育と栄養 (p.79) ②授乳・離乳の支援ガイド (p.79) ③乳汁栄養 (p.80)

各回の展開		
回数	単元	内容
7	子どもの発育・発達と食生活③	第4章 (p.85~92) 第5章 (p.115) ④離乳食の栄養 (p.85) ⑤幼児期の発育と栄養 (p.91) ⑥幼児期の食事 (p.92)
8	子どもの発育・発達と食生活④	第4章 (p.96~97、115) ⑦学童期の発育と栄養 (p.96) ⑧学童期の食生活 (p.97) ⑨学校給食 (p.97、P.115)
9	食育の基本と実際	第5章 (p.104~111) ①食育の意義と推進 (p.104) ②保育所における食育の実際 (p.109)
10	児童福祉施設や家庭における食と栄養①	第6章 (p.122~130) ①児童福祉施設における食事の役割と留意点
11	児童福祉施設や家庭における食と栄養②	第6章 (p.132~135) ②食における保護者支援 (p.132) ③家庭における食事と栄養・保護者支援 (p.134)
12	食の安全	第7章 (p.142~157) ①食中毒の概要と種類 (p.142) ②食中毒の発生状況と予防策 (p.149) ③施設における衛生管理 (p.155)
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	第8章 (p.162~174) ①体調不良をもつ子どもへの対応 (p.162) ②疾病をもつ子どもへの対応 (p.167) ③障害のある子どもへの対応 (p.171)
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②-①	第9章 (p.184~199) ①食物アレルギーとは (p.184) ②保育所における食物アレルギー・アナフィラキシー対応① (p.189~194)
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②-②	第9章 (p.194~199) ③保育所における食物アレルギー・アナフィラキシー対応② (p.194) ④保護者支援 (p.197) ④誤膳・誤食再発予防の考え方 (p.199)

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康		
必修選択	選択	(学則表記)	健康		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	『健やかな育ちを支える 領域「健康」』		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。				
到達目標	① 幼稚園教育要領等における領域「健康」のねらい及び内容について理解する。 ② 体の諸機能の発達、運動発達および生活習慣の形成について理解する。 ③ 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	【第1章】 幼児と健康	幼稚園教育要領等における「健康」のねらいや内容について学ぶ。
3	【第2章】 発育・発達	発育、発達、成長の特徴と違いを理解し説明できるようにする。
4	【第3章】 運動	運動機能の発達過程および運動遊びの意義について理解する。
5	【第4章】 生活習慣	基本的な生活習慣とその意義について学ぶ。
6	学びの振り返り	第1章～第4章の振り返り
7	【第5章】 食育	生涯を健康に過ごすために必要な食育の基本を理解する。☒
8	【第6章】 幼児の保健	保育現場の保健に関する知識を学ぶ。

各回の展開		
回数	単元	内容
9	【第7章】保育における安全管理	保育現場の安全管理について学ぶ。
10	【第8章】現代的課題	領域「健康」に関する現代的課題と保育者の役割について学ぶ
11	領域「健康」のねらいと内容①	幼稚園教育要領にある「健康のねらい・内容・内容の取り扱い」について理解する。
12	領域「健康」のねらいと内容②	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある「健康のねらい及び内容」について理解する。
13	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。
14	振り返り①	これまでの内容のまとめ
15	振り返り②	これまでの内容の解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	人間関係		
必修選択	選択	(学則表記)	人間関係		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	実践につながる新しい保育内容「人間関係」		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期の人間関係の発達に関する学びを基に、領域「人間関係」のねらい及び内容への理解を深める。				
到達目標	① 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。 ② 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 ③ 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現・人間関係指導法				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・到達目標について
2	第1章 子どもを取り巻く現代社会の状況	・第1節 子どもを取り巻く現代的課題と子どもの生活の変化 ・第2節 新しい時代に求められる教育的効果としての非認知能力 ・第3節 領域「人間関係」の成り立ちと目指すもの
3	第2章 領域 「人間関係」	・第1節 0歳児のねらいと内容における「人間関係」 ・第2節 領域「人間関係」における1歳以上3歳未満児のねらいと内容 ・第3節 領域「人間関係」における3歳～5歳のねらいと内容
4	第3章 0歳児における人間関係と援助	・第1節 0歳児の心身の育ちと人間関係 ・第2節 人との関わりを育むあそび
5	第4章 1～2歳児における人間関係と援助	・第1節 1～2歳の心身の育ちと人間関係 ・第2節 人との関わりを楽しむあそび（保育者による支援）
6	第5章 3～5歳児における人間関係と援助	・第1節 3～5歳の心身の育ちと人間関係 ・第2節 人との関わりを育むための子ども理解 ・第3節 幼児期までに育ってほしい姿と小学校への接続
7	第6章 人との関わりが難しい子どもへの支援	・第1節 集団生活に困難が伴う子どもとは ・第2節 インクルーシブな保育に向けて

各回の展開		
回数	単元	内容
8	第7章 子育て支援における人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 子育て支援とは</li> <li>・第2節 園における保護者支援の種類と関わり</li> <li>・第3節 子育て支援センターにおける「おもちゃの広場」の実践例</li> </ul>
9	第8章 保育における現代的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 ICT技術の発展と幼児期の影響</li> <li>・第2節 外国にルーツを持つ子どもや家族との関わり</li> </ul>
10	振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	振り返り	総復習
12	まとめ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く現代社会の状況</li> <li>・領域 「人間関係」</li> </ul>
13	まとめ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児における人間関係と援助</li> <li>・1～2歳児における人間関係と援助</li> </ul>
14	まとめ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～5歳児における人間関係と援助</li> <li>・人との関わりが難しい子どもへの支援</li> </ul>
15	まとめ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援における人との関わり</li> <li>・保育における現代的課題</li> </ul>

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	環境		
必修選択	選択	(学則表記)	環境		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	[新版]保育内容「環境」		出版社	大学図書出版	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	領域「環境」の指導に関連する、保育現場で求められる環境についての知識・技術を学習する。学習者自身が環境構成する上で基本的な知識・技術を学習する				
到達目標	① 保育における環境とは何かを理解する。 ② 子どもが環境と関わって成長していくためには保育者としてどう在るべきか考察できる。 ③ 子どもの視点に立った環境を構成する心構えをもつことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 領域「環境」とは	領域「環境」について 授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	保育における環境	園のあり方、保育における環境の基本的な考え方について 幼稚園教育要領と保育所保育指針・領域「環境」の「ねらい」「内容」について
3	子どもの生活と保育環境	人的環境・物的環境・自然環境・社会環境という環境の区分について あらゆる子どもにとって配慮された環境について
4	物的環境との関わり	物的環境について リスクとハザードについて
5	自然環境との関わり	自然環境(四季、命の移り変わり、虫・小動物等苦手な生き物)について 自然環境を守るという姿勢について
6	子どもを取り巻く社会環境	地域の拠点としての園と地域社会とのつながりについて 地域資源について
7	遊びを通して関わる環境 (数量・図形・文字・標識)	遊びを通して関わる環境として、数量・図形・文字・標識について 数量・図形・文字・標識に関わる遊びについて 生活の中で数量・図形・文字・標識に出会う機会について

各回の展開		
回数	単元	内容
8	遊びを通して関わる環境 (科学との出会い)	遊びを通して関わる環境としての科学について 科学と出会えることができる遊びについて 生活の中で科学と出会う機会について
9	遊びを通して関わる環境 (子どもを取り巻く情報メディア)	遊びを通して関わる環境としての情報メディアについて 情報メディアを活用した遊びについて 生活の中で情報メディアの活用について
10	振り返り	総復習
11	領域「環境」を生かす幼稚園教諭・保育士の役割	領域「環境」を生かす幼稚園教諭や保育士の役割について
12	園の環境構成	乳児・幼児の環境の特性について
13	実践編：泥団子作り	泥団子作りの魅力について
14	実践編：年間行事	園生活の年間行事について
15	総まとめ	振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	言葉		
必修選択	選択	(学則表記)	言葉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」[第2版]		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	言葉の意義や機能について事例を通して学ぶとともに、言葉を豊かにする実践や児童文化財の意義と活用方法について体験的に理解し、保育への取り入れ方を考える。				
到達目標	① 人間にとっての言葉の意義や機能について理解する。 ② 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 ③ 幼児の発達における児童文化財の意義を理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	健康・人間関係・表現・環境				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて説明。言葉の必要性について考える。
2	子どもの育ちと領域「言葉」	人間形成の大切さと領域の考え方を理解する。 領域「言葉」の「ねらい」と「内容」を理解する。
3	人間と言葉	言葉の不思議で奥深い側面について考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する。
4	乳幼児期の言葉の獲得	乳幼児は自ら言葉を獲得する力を持って生まれてくることを知る。乳幼児が言葉と言葉の仕組みをどのようにして見つけているのか、その概略を理解する。
5	言葉の豊かさと言葉遊び	日本語の豊かさに触れ、言葉遊びの体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
6	児童文化財①〔おはなし〕	保育における児童文化財活用の意義を理解するとともに、「おはなし」の活用方法を身につける。
7	児童文化財②〔紙芝居〕	日本独特の文化財である紙芝居の歴史と特性を知るとともに、紙芝居の演じ方のポイントを押さえて実演できるようになる。
8	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本各部の名称や絵本のジャンルを知るとともに、絵と言葉が協力する絵本の特性を理解する。

各回の展開		
回数	単元	内容
9	児童文化財④〔絵本と子ども〕	効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につける。絵本の中に描かれた子どもについて考察する。
10	学びの振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認。
11	実践 児童文化財を活用した保育	児童文化財を活用した指導案作成
12	実践 児童文化財を活用した保育	
13	実践 児童文化財を活用した保育	
14	実践 児童文化財を活用した保育	児童文化財を活用した保育実践
15	実践 児童文化財を活用した保育	

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	表現（音楽）		
必修選択	選択	（学則表記）	表現（音楽）		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 —感性と実践力豊かな保育士へ— 保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児の音楽的遊びや生活と領域「表現」の関連性、幼児の音楽的発達を理解する。様々な音楽的表現活動を通して音楽の楽しさを味わうと共にその楽しさの要因を音楽的知識から探る。また音楽表現活動を通して他者の表現への共感や表現を豊かにしていく過程を学び、まとめとして幼児の音楽表現活動計画を立案し実践する。					
到達目標	表現(音楽)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。ここでは、わらべうたや子どもの歌唱、リトミックやオルフの幼児音楽教育、音楽遊びの立案に視点を当て、幼児の音楽的表現の理解や様々な音楽表現の実践を通して、領域「表現」における音楽表現の指導の基盤となり、幼児の感性や音楽表現の育成につながる音楽的基礎知識、音楽表現の基礎知識、技能、感性を身につける。					
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。					
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。					
関連資格	保育士・幼稚園教諭					
関連科目						
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。					
担当教員				実務経験		
実務内容						

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス
2	わらべうた	わらべうた遊びの実践・わらべうたの特徴の理解
3	幼児の歌唱と歌唱活動	初めてのうたの歌唱活動の支援
4	リトミック	リトミックの教育目的・活動方法・遊び方の留意点
5	拍子を用いたリトミック	拍子を用いたリトミックの実践とその理解
6	オルフの音楽教育	日常の音を聴く遊び・ポディーパーカッション オルフの音楽教育

各回の展開		
回数	単元	内容
7	音楽遊びの指導計画	音楽遊びの指導計画の概要と作成方法
8	低年齢児を対象とした楽器遊びの立案	2・3歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践
9	4・5歳児を対象とした楽器遊びの立案	4・5歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践
10	振り返りと実践	第2回－9回内容の振り返りと実践
11	振り返りと実践	第2回－9回内容の振り返りと実践
12	振り返りと実践	第2回－9回内容の振り返りと実践
13	振り返りと実践	第2回－9回内容の振り返りと実践
14	振り返りと実践	第2回－9回内容の振り返りと実践
15	総まとめ	まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	表現（造形）		
必修選択	選択	（学則表記）	表現（造形）		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	15
使用教材	知識を広げ保育実践に生かす表現（造形）		出版社	萌文書林	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	①子どもたちの感性や創造性を豊かにする様々な製作表現方法を理解する。 ②製作表現活動に必要な知識技術と保育への活用法を身につける。				
到達目標	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標、評価、使用教材について理解する
2	第1講幼児期の造形表現について 教科書P17～32	造形の意義と幼児期の造形に関する発達を理解する
3	第2講平面表現① 教科書P53～81	造形で多く使われる平面の素材である絵の具や描画材の性質や特性を学ぶ 平面表現における素材の活用法を知り、応用する術を学ぶ
4	第3講平面表現② 教科書P82～91	幼児造形における版画の活用法を学ぶ 版画（転写）の技法を知り、保育現場での活用法を学ぶ
5	第4講立体表現① 教科書P92～97	立体素材の代表である粘土の意義を学ぶ 粘土の種類と特性を知り、保育現場での活用法を学ぶ
6	第5講立体表現② 教科書P97～120	立体素材の木や紙の特徴を知り、造形への活用法を学ぶ 立体素材を扱うための道具の使用方法を学ぶ
7	第5講立体表現② 教科書P110～112	新聞紙を使った造形遊びを考える
8	第6講表現の原理（色彩） 教科書P34～46	造形の基礎となる表現の原理である色彩の基礎を学ぶ 色彩の原理や混色、色の対比を習得する

各回の展開		
回数	単元	内容
9	第7講協同しての表現	造形における協同での作品制作の在り方を学ぶ
10	まとめと確認	これまでの学びの確認を行う
11	第8講保育での模擬保育 教科書P121～147	実習を行うにあたり、造形活動を念頭に置いた指導計画作成の手順を学ぶ
12	第8講保育での模擬保育 教科書P121～147	各年齢の発達過程を理解し、子どもの実態に即した指導計画の作成方法を学ぶ 準備から片付けまでの一貫した流れを捉えた指導計画を作成し、実践する術を学ぶ
13	第8講保育での模擬保育 教科書P121～147	4歳児クラス対象の製作を主活動とする指導案を作成する
14	第8講保育での模擬保育 教科書P121～147	4歳児クラス対象の製作を主活動とする指導案を作成する
15	まとめ	製作表現の振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ピアノⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ピアノⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ & アクティビティ科	1	30
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 —感性と実践力豊かな保育士へ— 保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱 こどものうた200 続こどものうた200		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場に必要な実践的なピアノ演奏の基礎技術を身に付ける				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの力で読譜ができ、演奏ができる力を身に付ける。</li> <li>・生活のうたの両手奏ができる。</li> </ul>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者。				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ピアノを弾くための基礎知識	授業の流れ、到達目標、評価について 楽譜の基本 ピアノを弾く姿勢 指番号とその意味
2	ハ長調	ハ長調の曲練習
3	ハ長調	ハ長調の曲練習
4	ハ長調	ハ長調の曲練習
5	成果発表①	ハ長調の曲 発表
6	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
7	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
8	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習

各回の展開		
回数	単元	内容
9	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
10	成果発表②	ハ長調とその他の長調 発表
11	色々な調	色々な長調の曲練習
12	色々な調	色々な長調の曲練習
13	色々な調	色々な長調の曲練習
14	色々な調	色々な長調の曲練習
15	成果発表③	へ長調・ト長調の曲発表 前期の振り返り
16	生活のうた① こどものうた	「生活のうた①」導入（例「おはよう」） 各自のレベルに応じて選曲し練習
17	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
18	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
19	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
20	成果発表④	「生活のうた①」演奏発表
21	生活のうた② こどものうた	「生活のうた②」導入（例「おかえりのうた」） 各自のレベルに応じて選曲し練習
22	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
23	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
24	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
25	成果発表⑤	「生活のうた②」演奏発表
26	生活のうた③ こどものうた	「生活のうた③」導入（例「おべんとう」） 各自のレベルに応じて選曲し練習
27	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
28	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
29	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
30	成果発表⑥	「生活のうた③」演奏発表 振り返り